

一五〇
ルクリン療法を行ひつゝある程に、自分はツベルクリンの効果に就ては強い感
じを興へられて居るのである。千八百九十年に初めてサラナック・レークに不
思議の靈藥の一壘が到着して以來、今日に到る迄、世間のツベルクリンに對す
る非難攻撃は依然としてその聲を收めないにも拘らず、このサナトリウムに於
て引續き最も入念にツベルクリンを使用しつゝあるのは、かゝる考への致す所
なのである。今日（一九一五年）に於てもツベルクリンは、猶未だ研究の域を脱
せざるとは云へ、慢性傳染病に對する他の多くのワクチンの効果と匹敵する地
歩は占め得たものと云ひ得るであらう、患者にして病狀が局限する傾向を有し
そして猶且ツベルクリンの刺戟に反應を現し得るならば、これを正しく使用
する事によつて慢性病症の場合に個體の沈滞せる防禦機能を刺戟させ、病勢
の昂進を阻止する事が出来るのである。」
「茲に於て疑問とすべきは、結核病に對して斯る効力を有するツベルクリンが、

輕率なる
コツホの
聲明

何故に、發見者たるコツホの聲明を裏切り世間の期待に反したやうな結果を生
じたのであらうか、私は考へるに、千八百九十年にコツホ氏が伯林の國際學會
でなした發表は、不完全なる實證を基礎として、心ならずも急いで斷案を下す
のを餘儀なくされたのかと思はれる點がある、故に第一回の發表は或は許すべ
しとするもその後、千八百九十七年、コツホ氏が更に新劑T・Rに關する論文
を發表した時に、紛れもなき言葉を以て、新ツベルクリン（即ち所謂T・R）の
モルモットに對する免疫力に關して、「我は多數のモルモットを完全免疫せしむ
ることに成功せり、免疫後のモルモットは、諸種の培養菌を接種せるも感染の
事實を認めざりき」と、前年の失敗にも懲ずに重ねて聲明をなしたのは、誠に
あるまじき事と云はねば成らない。我々がツベルクリンの免疫及び治療作用に
就てコツホの聲明の基礎を成す動物試験上の實證を究め同氏の研究の足跡を辿
らうとする時に、遺憾ながら次の悲むべき事實に逢着するのである、それは、

ツベルクリン論文中には、結核菌発見の場合に於けるが如き、事毎に科學的實證を掲げ、些の曖昧をも許さなかつた精到無比の研究態度を見出し難いのみならず、モルモットを免疫し治療せしめた動物試験の内容すら見出す事が出来ぬといふ點である。かゝる由々敷き重大問題に於てコッホのこの態度は甚だ悲し可きこと、云はなければ成らない、なんとなれば、動物試験の精細なる内容を發表ありてこそ、後進の學徒は初めてコッホの研究を反覆し、彼れの聲明を裏書きし得るのである、結核治療法としてのツベルクリンの眞價は、斯くの如き公明なる研究の礎石の上に確立されなければ成らない。實に、ツベルクリン発見以後、今日に到る迄に、多くの研究者はモルモットを完全免疫せんとして私と同様の失敗を味つたのである。この完全免疫が成功した曉に非ずんば我々が根氣よく熱心に探求しつゝある結核特效薬の発見は到底考へられないのである。」

「千九百八年、ワシントンに於て開催された萬國結核協會大會の席上で、米

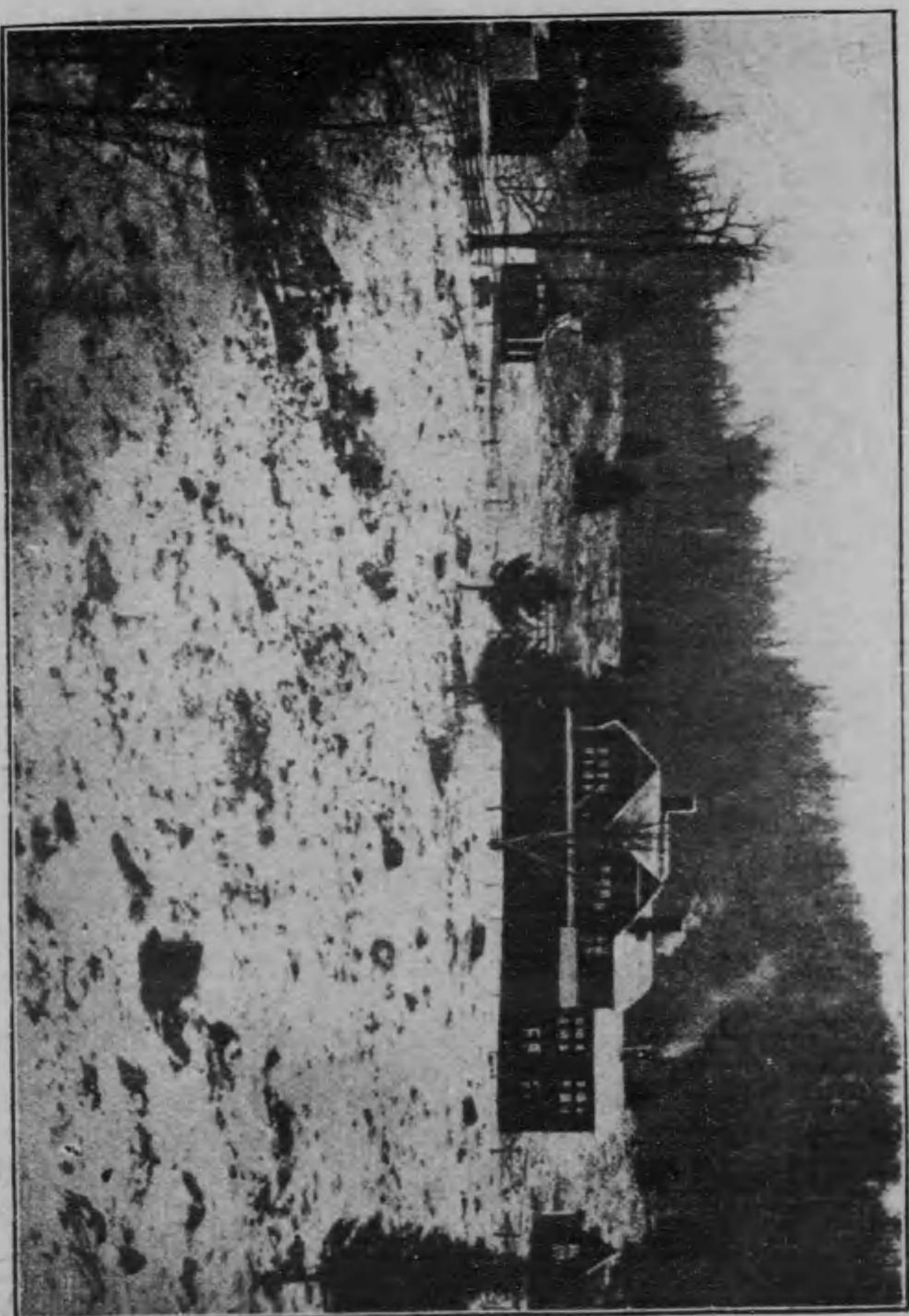
國の協會々頭たる自分はドクトル・ローベルト・コッホ氏と相列んで坐するの光榮を有した。その時に自分はコッホ氏に對して、彼れの結核菌発見の業績を稱揚し、當時アディロンダック山中の不便極まる境遇に於て、自分如き初學者が英譯の手寫本だけを頼りに、病原菌発見の根據をなす菌培養及接種の實驗を成就し得たといふことは、如何に彼れの報告が正確であり明晰であつたかを知るに足る旨を語つた事がある。その時コッホ氏は私の手製の實驗器具や、間に合せの研究方法を聽いて非常に興味を感じたらしく見えた。」

ツベルクリンに關するトルドーの記述は、これで盡きて居ます。以上を通讀して私共の痛感する點は、コッホの病原菌発見とツベルクリン創製との二つの業績に對するトルドーの批判鑑別の態度が嚴然と區別されて居るといふ事です。病原菌発見に對してはコッホの業績を稱揚措く能はずとして、結核協會大會の席上でも口を極めて讃稱した事迄も自敘傳に特記してあるに拘らず、ツベルクリ

ン發表のゴッホの態度に關しては、第一次發表の輕躁は恕すべきも、千八百九十七年の第二次聲明は、學者として許すまじきものを憚る所なく指摘して居るのであります。しかも、聲明の誇大なるの故を以て、ツベルクリン發見の業績を全然見捨てるやうな偏狹な考へを、トルドーは持つては居ませんでした。前掲の譯文中にもある通りに、トルドーは、ツベルクリン療法を以て、サナトリウム療法の有効なる補助療法である事を断定し、研究上にも、臨床上にも、畢生の努力を怠らなかつたのであります。

この一章は多少専門に涉る物語りではありますが、結核菌發見以後に於てもサナトリウム療法の價值は決して減損せぬものである事を、トルドーが論結するに到つた大切な所でありますから、特に御精讀を願ひます。

第十一圖



千八百八十六年のサナトリウム
本館の右手の小さな建物が「リッタル・ルンド」です。

七、暗澹たる創立時代

千八百八十五年に「赤い小舎」を建て、から以後のサナトリウムは、非常な維持困難の苦闘を続けながらも、発展の歩みを止めませんでした。千八百八十六年から七年に掛けて二棟のカッテージが寄附されました、その内の一棟は四人詰、他の一棟は二人詰めのもので、續いて、千八百八十七年から翌年に互つて四人詰のカッテージが二棟リー氏及びクーパー氏によつて寄附建設されました。カッテージは漸次増設されますが、それに連れて、飲用水やら下水の必要が、切實の問題として、トルドーの前に現はれて來ました。飲用水の方は千八百八十六年にクーパー氏が泉の湧く水源地を買収して、サナトリウムに寄附してくれたので、一安心出來たのですが、下水汚物の處理は、石炭も水道もない土地の事ですから、

一五六
何とも方法のつけやうがなく、絶えずこの事が患者の苦情の種となつて、トルードーを悩ませたのです。この時代に於ては親しい友人知己以外には何人と雖も、この小療養所の難境に同情を寄せて呉れるものはありません、その友人知己の應援すらも、唯トルードー個人を慰めるが爲めの應援で、眞實サナトリアムの事業そのものに心からの理解同情を寄せては居ませんでした。この間に處してトルードーは經營上の確たる方針もなければ、資金もなく、一時は非常の失望懊惱の淵に沈んだのであります。その當時を追想して、自敘傳は次のやうに語つて居ます。
「私はサナトリウムに内勤すべき醫師を雇入れる事が出来なかつた爲、夏になるとポールスミス村から往復廿八哩の道を自分自身でサナトリウム迄出張しなければ成らなかつた。サナトリウムの患者を指導し慰安する爲めの看護婦すらも雇ひ得なかつた。萬一入院患者の病状が急變して重症に陥つた時なども、それを收容する別室とでもなく、第一さういふ場合に、患者に食事を運び藥を

速成看護
人

與へる人が居なかつた。かゝる場合には私は已むなく材木人夫や案内者を臨時に雇入れて重症患者を看護させ、婦人患者には出来る限り年寄りの女を探して看護さす事にしたが、これは費用が非常に掛つて、その實少しも役に立たなかつた。殊に患者が大咯血をやつた場合などは、これ等の速成看護人は顔色を變へて病室から逃げ出してつて、如何に私が口を酸くして説いても再び戻つて来やうとはしない。稀に患者が死亡した時などは、私自身が手づから世話を焼かねば、サナトリウム内の傭人達は恐怖の餘り擧つて脱走しかね間敷き程に騒ぎ立てるのであつた。その上に食事の問題が常に苦情百出して、使用人雇入れの困難と共に絶えず私の苦勞の種となつた。憶へば創立の當初は暗澹たるものであつた、時としては火藥の爆發か大地震でも突發して手取り早く自分のすべての苦勞の種を一掃して呉ればよいにと思はぬでもなかつた。そんな時には、私は獵銃を手に飛び出して、思はぬ獲物に一切の煩悶憂鬱を晴すのを常と

した。」

「前に書いたノルトン一家のものは千八百八十八年の秋迄サナトリアムの面倒を見てくれた。その後を襲いだミラー夫人は病人の下宿屋を営んで居た経験があつたので、よく創立時代の困難に處して適任者たる實を擧げてくれた。この時代に於て、私は他に一人の思ひ掛けなき助手を得たのであつた、それはフランク・インガーソールといふ醫學生であつたが、彼れ自身非常な肺結核の重患であるに拘らず、サナトリウムに於て私の助手としての重要な職務に就いて、實に熱心に獻身的な仕事を續けて、あらゆる患者の敬慕の的となつた。彼れは不治の難患を胸に抱きながら、絶えず襲ひ來る病苦を意ともせず、一言の愚痴をも洩さずに、孤獨な貧しい生涯を常に愉快に、常に頼もしく、死に到る迄、病友の爲めに盡したのであつた。私は彼れによつて初めて「人は忍従の精神によつて苛酷なる運命を征服し得るものだ」といふ教訓を與へられたのであつた。

厚むべき
助力者の
輩出

當時インガーソールの助けなしには、私はあの難境を突破し得なかつたであらう、私は終世彼れを忘れる事は出來ない。」

「インガーソールと同じ悲惨な運命の下に同じ獻身的な勞務をサナトリウムに捧げた者にアーネスト・ポーブといふ英國人があつた。それはインガーソールよりも遙かに遅く一九〇一年の頃であつたが、ポーブは彼れが専門とする統計方面の仕事を以てサナトリウムの爲に働く條件の下に、サナトリウムから三度の食事と好きな葷だけを給して貰ふ約束で、數年後彼れの死に到る迄、愉快に病友の爲めに有要なる生活を送つた。貧窮にも孤獨にも致命的の疾患にも些しも脅かされずに欣然として忍従の精神を以て運命に打ち勝つた點に於て、彼れも亦稀れに見る健氣な病者であつた。」

このやうに、千八百八十五年から千九百年頃までは、トルドーのサナトリウムは實に暗澹たる創立時代の苦惱に苛まれたのでしたが、病弱のトルドーは

創立時のあらゆる困難に堪へて、僅かなる篤志家同情者の援助の下に、患者の治療及びサナトリウム経営の衝に當る餘暇を以て、患者友人から寄附金を募集し、又は病舎寄附の勧誘を怠らずに、終に今日のトルドー・サナトリウムの礎石を築きあげたのです。彼れは自叙傳の或る場所て次のやうな事を云つて居ます。「不幸にして自分は組織的に仕事を進めるやうに訓練されて居なかつた。唯、私は思ひ立つた儘に突進する、そして順序も時期も構はずに爲し得られる丈けの事を實行した」と。いかにもトルドーの計畫は秩序的ではありませんでしたが、この行き當りばつたりの樂天的方針と、彼れの小舎式サナトリウムの設計とが偶然にも實によく合致したのでありまして、若しもトルドーがカツテージを一棟づゝ増設して行く方針を實行せずに、普通一般の病院風の建設を思ひ立つたならば、資金募集難の爲めに可惜胸中の大計畫も實現の日の目を見ずに朽ち果てたのでせう。カツテージ式の散在的サナトリウムは患者一人當りの建設費から觀れば、病

院式の集約的サナトリウムに比して遙かに不經濟なものには相違ありませんが、建設費が餘計かゝる従つて利廻りが悪いと云ふやうな營利的觀念を全然超越して居るトルドーとしては、自分の胸奥の理想を最も容易に實現し得るカツテージ式設計を採用した事が賢明な方針であつたのです、兎に角カツテージといふ一種獨得のサナトリウムはトルドーといふ個人を離れては到底創設され得なかつたものと云つても差闕へないでせう。

尙、引續いてサナトリウム發展の有様を敘べますれば、千八百八十九年から千八百九十四年迄の間に、九棟の新しいカツテージが、八名の寄附者によつて建設され、娯樂室及び撞球場として一棟の外氣式別館がストークス夫人によつて寄附され、重症患者のみを看護するカツテージ(原名はインファミアリー・カツテージと云ふのですが假りに重症カツテージと名づけれます)がホール夫人によつて建

醫員住宅

一六二
設され、研究所基金が二名の匿名家によつて發起され、圖書館が故カーンウィラ
ー氏を記念すべくその兄妹によつて新設され、又、千八百九十三年には、内勤醫
員の住宅カッテージが新設されたのです。内にも、重症カッテージと醫員住宅を
建設し得たことは、サナトリアムの治療上の効果を非常に増進させました。何と
なれば、それ迄は内勤醫員はサナトリウム本館に起臥して居た爲めに、獨身者又
は短期在勤者には差闕へなかつたのですが、妻帯の適任者を長く在勤せしめる便
宜を缺いて居たのです。然るに住宅が初めて建設された爲めに、サナトリウムは
有能なる醫師を永住せしめる事が出来、従つて患者は間斷なき指導監督を受けら
れるやうになつたのは、トルドーにとつて何よりの安心であつたと同時に、獻
身的に薄給に甘じて働いて呉れる内勤醫員——その當時の醫員であつたドクト
ル・ハンスは年俸僅かに三百弗でした——に住心地よきカッテージを與へる事の
出来たのも亦トルドーに多大の満足を與へたのでした。

病室内の
塵埃の動
物試験

ドクトル・ハンスの名が出て來ましたから序に書いて置きますが、病室内の傳
染に就て其當時サナトリウムで實行して居た簡單な豫防方法で十分なりや否やと
いふ問題を解決する爲めに、トルドーはハンス氏に命じて精密な實驗を行つて
貰つたのであります。ドクトル・ハンスは建物一棟毎に壁に附いて居る塵埃を集
めて多くのモルモットに注射して見たのです、これは非常に微妙な實驗方法なの
で苟も塵埃中に結核菌が潜在して居れば何時かはモルモットに症狀を現はさな
ければ成らないのです。この實驗の結果はどの建物にも病菌を發見し得なかつた
ので、殊に、重症患者のみを收容する重症カッテージですらも病室内に結核菌
の存在せぬ事を確め得たのです。しかし、たつた一棟——「赤い小舎」——から集め
た塵埃を注射した結果が、十匹のモルモット中に三匹丈だけが陽性でありましたが、
これには原因が無くはないので、そのカッテージに居る患者の一人は痰を喀く時
にいつも不注意で困るといふことが二回迄も醫局に報告されて居たのでした。こ

一六四
の實驗によつて、これ迄サナトリウムで實行して來た簡單な豫防消毒方法で十分である事が立證されたのであります。豫防消毒の方法に就ては自敘傳には何にも書いてありませんが、私の手許にあるトルドー・サナトリウム患者心得といふパンフレットの中には、喀痰の處置と、咳をする時の注意丈けが非常に嚴密に規定されて居まして、これに違反すれば退去を命ずると迄書かれて居ますから、その當時の豫防方法とても矢張り喀痰と咳嗽とに對する嚴重なる注意に過ぎなかつたものと思はれます。上記の實驗は千八百九十五年頃に行はれたのであります。アディロンダックの片田舎の療養所が今から卅年前に早くも病室内塵埃の動物試驗を行つて、消毒方法の可否を確かめたといふ事は感服すべき事かと存じます。

話を前に戻しまして、サナトリウムの新設備の事を述べませう。醫員住宅の新築と同時に、重症カフ・ツの設備も亦患者に多大の惠澤を齎せました。これ

によつて、入院後重症に陥つた患者を初めて満足に治療し看護することが出來たのです。このカフ・ツは年を経るに従つて狹隘を感じて來ましたが、後にピッツバーク市のチャイルツ氏が亡妻を記念する爲めにチャイルツ記念館といふ壯麗な大カフ・ツを建設し、これを重症患者用の病舎としてサナトリウムに寄附したので、治療上の不便を全く除く事が出來ました。重症カフ・ツが創設された時最初に看護を受つた婦人はミス・キルビーといふ人でしたが、この婦人はトルドーに對して進んでその任に當ることを志願したので、トルドーも多分永く續くまいと思ひつゝも、欣んでその申出を容れて重症患者の看護を一任しました。そして、ミス・キルビーの着任後直ぐカフ・ツを訪問した處が、驚いた事には、ミス・キルビーは食事の世話をするやら、喀血患者の顔や手を洗ひ清めて遣るやら恰も以前からその職に馴れて居る者の如くに働いて居たのです。彼の女は斯くの如き獻身的な態度を以て、一文の報酬も受取らずに、約束の期間

を勤めあげて、サラナック・レークを立去りました。トルードーの身邊には常にこのやうな没我的な勞務を喜んで爲し遂げる協力者が輩出したのです。話は一寸餘談に互りますが、ミス・キルビーの後任者であるコリンズ嬢の事に就て、自伝から一節を寫し度いと思ひます。

我の福音

ミス・コリンズはミス・キルビーの後を襲いて數年の久しきに互つて、重症者の看護の任に當り、トルードーをして、「我れ實に嬢に於て活ける無我の福音を學べり」と讃稱せしめた婦人でありましたが、或る日のこと、トルードーを訪問して、次の申出でをしました。それは、三年越し療養の爲めにこの村に滞在して居る貧しい一患者が不幸にも絶望の病狀に陥つて今は餘命幾何もない有様となつたのであります、斯かる絶望の病人をサナトリウム内に收容する事は、他の病人を悲觀せしむる虞れがあり、且つサナトリウム以外でも看護の途もあるのですから、トルードーが入院を承諾しないといふ事は、ミス・コリンズもよく承知して居る

のですが、同嬢の申出でた處は、他の患者と接觸の虞れのない自分の部屋にその病人を收容し度いからどうか許して貰ひ度い、その間自分は休憩室の椅子の上で寝る事にするといふのです。この申出でをトルードーはどうして許さぬ事が出来ませうか、それから三ヶ月間その患者が歿する迄、ミス・コリンズは夜は休憩室の椅子に眠つて懇篤な看護を續けたのであります。これには流石のトルードーも敬服して、「自分も随分肺病患者の爲めに犠牲を拂ふのを辭せない積りであるが、自分の居間もベッドも數ヶ月間瀕死の病人に提供し、その間自分は休憩室で眠りつゝ看護に努めるといふやうな事を考へたことはなかつた」と、驚嘆の言葉を洩したといふ事です。

扱、トルードーがサナトリウムの事業を創めてからと云ふものは、年一年と、サラナック・レークの名が世人の注意を惹き、トルードーのサナトリウムと云へ

一六九
ば、前代未聞の肺病新治療法を施す場所の如く考へられるに到りました。由來肺病に對する「新しい治療法」は「新しい希望」の類語のやうに誤解速断される傾向があるのですから、アディロンダック・カッテージ・サナトリアムの噂を聞きつけた人々は患者たると醫者たるとを問はず、富めると貧しきとを論ぜず、アディロンダックの氣候とトルードーの新治療法を是非試みる積りて、サラナック・レークに押寄せたのであります。殊に、夏の間は一汽車毎に幾人かの患者がこの村に到着して彼れの診断を求めるといふ有様でした。このやうに多數來集する病人を、トルードーたった一人て最初の間は應對し診察したのでありますから、それだけでも可也の激務であるのに加へて、トルードーは夏季三ヶ月間は、ポールスミスの村に居住して、主としてポールスミス旅館の療養客及びキャンプ生活をする人々の診療に従事しなければ成らなかつたのです。サラナック・レークに押掛けて來る患者を餘所にして、彼れがポールスミス村に夏を過すのを常とした爲めに、サ

トルードーの生活

ラナック・レークの村民などは、あれは、ドクトルが暑中休暇をとるのだと思つて居たのですが、事實は正反對なのです。實にトルードー一家の一年間の生活費は、毎年夏の間のポールスミス村に於ける彼れの醫療收益から支拂はれたのであつて、彼れはサナトリウムからも研究所からも、一錢の報酬をも受取つては居なかつたのです。そればかりではありません、トルードーはポールスミス村に遊獵又は療養の目的で來泊する人々と交際を結び、それ等の人々にサナトリアムの目的を説き、同情を仰いで、年々サナトリアムの發展と共に不足を増加する經費の寄附を求めたのであります。即ち、夏季三ヶ月間はトルードーは、自分一家の生活費を稼ぎ、サナトリアムの維持費の寄附勧誘をし、そして、入院患者の診断に當るといふ三面六臂の活動をせなければならなかつたのです。しかも、トルードーの健康は決して、この活動を敢てなし得る程度に恢復して居たものではありませんが、この時代に於けるトルードーは、最早自己の療養を願ふの暇がなく、肺病

撲滅運動に全力を傾注するの活動期に入つたのであります。も一度繰返します。
トルドーは自分の經營するサナトリウムからは一文の報酬を受取らなかつたの
です。世の中には、他人の寄附を受けて或る慈善事業を經營しながら自分はそ
の事業から俸給を受取つて生活して行く者が澤山ありますが、これ等は慈善事業の
寄生蟲です。苟も他人から資財の寄附を仰いで一事業を經營せんとするものは、
勧誘の雄辯宏辭を養ふ以前に、自分の米櫃の用意をしなければ、如何に辯明して
も、慈善事業に寄食するの譏りを免れないでせう。廉潔なるトルドーの性格を
紹介する意味に於てこの一事を特筆して置きます。
扱、ポールスミス村とサラナック・レークとを駆け持ちに活動したトルドー
の生活の一端を次に自敘傳から譯出させよう。

「自分は一週間に二日ポールスミスかちサラナック・レークの診察所に通勤し
た。その日は特に朝起きをして診察を早く切り上げ、午前十一時に、妻と無蓋

トルドー
の診察

の馬車（私は屋根のある馬車を決して使用しなかつた）に同乗して、十四哩の
道を、炎天をも厭はず、時には風雨をも冒して、診察所に通つた。到着するの
が午後の一時で、診察時間は二時から始まるのであるが、もう待合室にも廊下
にも中庭にも來診患者が詰め掛けて居るのを常とした、そこで手早く晝食を済
せて、七時迄五時間打つ通しの診察が初まるのだ。老若男女貧富貴賤を論ぜず
集り來る患者に對して一々病狀及び生活狀態に適應した注意を與へるので
あるから、それが五時間も繼續すると、仕舞ひ頃には身心共に疲れ果て、注意
力も鈍くなり、その爲心ならずも診察を疎略にするやうになるのであつた。
「私の診察待合室の群集の様を、或る婦人が巡回動物園の人だからと評したが、
恐らく他の人々にもさう感じたと見えて、或る日私がサナトリウムの一カッテ
ーシに往診した處が、壁に一枚の漫畫の貼つてあるのを見た。それは、私が高
い柵の後ろに、二連銃を膝に置いて坐つて居る、柵の前には充奮した群集が、

口々に自分達の病氣に關する途徹もない質問を叫んで居るのを、私が手を擧げて制して居る圖であつて、その畫の下に「令名の應報」と題してあつた。私は大變その漫畫を面白く思つたので、貰ひ受けて來て今でも、當時の激忙を極めた診察室の記念として保存して居る。」

「勿論、單調な退屈な哀れつばい空氣に充ちた長い診察時間の間には、病苦と貧窮とに悩まされた人世の種々相を見せつけられたが、時には面白い出來事や奇妙な人物に接することが無いでもなかつた。患者の中には、私を欺いて、診斷をためさうとするのもある、一度こんな事があつた、ある患者を診察しやうとすると、脊中の右側にヨチム丁幾が眞黒い位に塗布されて居る、それなのに診察して見ると左りの肺が悪いのであるから、なぜ右の方に藥を塗つたのかと訊くと、その患者は、笑ひながら「先生が判るかどうか試して見たんです」と答へた。」

「婦人患者の多くは、胸を診察する時に下着を脱ぐことを嫌ふので、私はそれを脱がせる爲めに、一秒時間も大切な忙しい中を、口を酸っぱくして説かねば成らなかつた。殊に年増の未婚婦人は難物であつた、やう／＼下着の一番上の釦を外させると、次の釦を外させるのに、又、口も疲れる位に辯舌を費さなければ成らない、そんな工合で診察を初める迄に十分や十五分の惜しい時間を空費して了ふ。しかし、又、反對にこんなこともあつた。或る新聞の婦人記者であつたが、診察時間後に來て是非診て呉れと頻りに頼むから、直ぐと着物を脱ぐなら診てもよいと云つて、私は書きものを續けて居た、すると、その婦人は、私の後方で着物を脱ぎ初めた、そして私が耳に聴診器をはめて後方を振り向いたら、その婦人は着物をすつかり脱いで素裸で突つ立つて居た。」

「或る日こんな出來事があつた。いつものやうに長い診察時間を漸く終へて、これでやつと最後の患者も診了つたとホツと一息すると、そこに、まだ一人見

すばらしい男が待つて居た、私はその男の様子から一見末期の結核患者たることを知つたので、ちり／＼する心も多少和いて、その男を診察室に招いた、すると、その男が云ふには「貴君がトルドー先生ですか、まるでお医者様のやうではありませんネ、どう見ても自轉車に乗る格好だ、」成程、半ツボンに革の脚絆を着けて居る半ば醫者半ば鐵砲打ちの私の姿は自轉車乗りと見えたくも知れぬ。「どうしたのだ」と訊くと「どうしたもかうしたもありません、私が肺病で死にさうな事がお判りになりませんか」と答へた、成る程それに相違はない。それから、事情を訊して見ると、その男は紐育市のフルークリンの大きな結核病院に收容されて居たのだが、一つの病室に五十人も寝かされて居て、三日居る間にそれが陸續と死骸になつて擔ぎ出されて行く、やがて自分もその運命に陥るのかと思ふと堪らなくなつて脱走をした、そしてサラナツク・レークに行けば、大抵の者は治ると病院に居る間に聞いたので、彼れはトルドーのサ

ナトリウムに行かうかと決心したのであつた。しかし、その男は一文無しの上非常に衰弱して居る、それなのに人の袖に縋つてヨンカーズ迄の汽車賃を貰ひ、その町に來てから又物貰ひをして居る間に捕へられて養育院に抛り込まれた。處が、養育院でもその男に其處で死なれるよりは、汽車の切符を買つて遣つて次の町に送つた方が割安だと考へて、早速その男に切符をあてがつて追放した、かやうに驛送りにされて、この男はトルドーの許まで辿つて來たのだと云ふ事が判つた。」

「何たる哀れな話だらう。私はとり敢へず、この男を村の安下宿に入れて面倒を見てやる事とした。處が、彼れは非常に樂天的な男で、一切泣き言を言はずに、このやうな辛い運命をも寧ろ頓だ經驗だ位に思つて居た、そして果物を賣り歩いて、やがて空地に小さな掘立小屋を建てる丈けの金を稼ぎ出した。彼れは其處で輕便な外氣療養を行ひ、食物はホテルの支配人の同情で餘り物を貰ふ

一七六
事とし、十八ヶ月間非常に満足して暮した結果、健康を著しく恢復したのであつた。この男の如きは全く自分獨力で療養を果した感心な患者と云はなければ成らない。然るに一夜突然サラナック・レークから姿を隠して了つた。その理由には薩張判らぬが、平素からこの寒氣を厭つて冬は南部に行き度いと云つて居たから、大方南部に出奔したのであらう、私は彼れが何とかして首尾よく目的地に達した事を疑はない。」

八、サラナック結核研究所

千八百九十三年の三月に二十一歳になる長女を喪つてから以後のトルードーの健康は、兎角に順調を缺いて居ましたが、それにも拘らず、彼れは助手であるドクトル・ポールドキンを對手に各種のツベルクリンを試製しては動物試験をして、その結果を研究し、時には夜を更かす事も珍らしくありませんでした。十一月の初めに例によつて、トルードー一家は紐育に出て来て、小さなアバートメントホテルに滞在して居ました處が、或る夜トルードーは急に激しい悪寒を覚え、續いて非常な高熱を發して、今迄にない險惡な病狀を惹き起しました。友人の醫師達が寄り集つて診察しましたが永い間診斷が確定しません、トルードーは寢て居ながら、友人達の鑑定は多分腎臟膿瘍といふ事に決定したので

腎臟膿瘍の併發

うと見當をつけて居ましたが、兎に角も、宿痾の肺結核以外の別の新しい病氣である事は疑ひないので、その痛みは一通りのものではありませんでした。それ以後といふものはトルドーは死に到る迄この病氣の爲めに絶えず悩まされ通したものでありまして、睡眠も長い間は續けられない、一二時間すれば病苦の爲めに夢を破らるゝといふ悲惨な身の上となつたのです。トルドーは痲疾の肺結核に加ふるに、斯る難症に悩みつゝも普通の病者のやうな愚痴や泣言を繰返さずにサナトリアムの爲めに健闘を續けたのだといふ事を特に申上げて置きます。

斯る重態に陥つた矢先きに、不幸は第二の不幸を誘ふものと見えて、サラナック・レークの實驗室に備へつけの孵卵器の石油ランプから火を失して、實驗室は勿論彼れの住宅迄、一物をも残さずに焼失したのであります。彼れにとつては尊い記念物であるコツホの論文の手寫本も亦火焰の中に葬られたのでした。この凶報は留守居をして居た助手のドクトル・ポールドキンからドクトル・ルーミスに

全編の災厄

打電し來たのですが、ルーミス氏はこの椿事を病牀に呻吟して居るトルドーの耳に入れるに忍びないので、先づ夫人を別室に呼び出して電報の趣を傳へたのです。處が、沈着なる夫人はこの災害を耳にしても少しも狼狽の色を現さずに、「なまじ隠し立てするよりは寧ろ有りの儘を主人に傳へて呉れ」とルーミス氏に頼んだのであります。この時のトルドーの心持は自敘傳に次のやうに書いてあります。

「部屋の戸が明いてドクトル・ルーミスが姿を見せた時に、午前の診察時間中なのにどうしてドクトルが病院からこのホテルへ抜けて來られたのかを不審に思つたが、ドクトルの顔色が尋常ならず嚴かであるので、さては何か變事が突發したのだかと直覺すると同時に、エール大學に在學中の長男が急死したのではないかと云ふ感じが頭腦に閃いたのであつた。ドクトルは病牀の側に来て、電報を示しながら「トルドー君、頓だ事が起つた。ポールドキン君からの電

報だが實驗室のランプから火を失して君の家は全焼して殆ど何も出せなかつた相だ。この報を聞いた時に私は長男の不幸でなくて先づ助かつたと安堵の胸を撫て下した、そして、次のやうにドクトルに答へた。「それ丈の事なら心配はいりません、住宅と實驗室は又建てる事も出来ませう。」
病中にこの不幸に際會したトルドーに對して見舞の電報や慰問の手紙又は寄附の申込みが多く友人から殺到して來ましたが、その内でも、ドクトル・オスラーの寄越した手紙の文面はトルドーにとつて忘れ難いものでありました。それには

「ドクトル・トルドーよ」

今回の災禍に對し深甚なる同情を表すると同時に、次の言葉を呈せんとす。

かの不死鳥があのが身を焚きてその灰燼より再び美しく生れ出づるが如く、今回の火災は御身に必ず不死鳥の奇しき再生の喜びを齎すべし」

不死鳥の再生

といふ文字が記されてあつたのですが、このオスラーの豫言が不思議にも、後數日ならずして、友人クーバー氏によつて實現されました。同氏は、トルドーの病勢の小康を見計つて、次の提言をなしたのであります。

「ドクトル、今回の御災難に對して私は相當の御援助を致し度と思ふ、就ては差當りの住宅としては、サラナック・レークの私のカッテージを何時迄でも御使用願ひ度、次に實驗室の方は永久に焼けないやうに鐵骨石造でどうか貴君の御希望通りに完全なものを設計して下さい。建築費用を私がお支拂ひして親しく貴君に寄附する事が出来れば誠に重疊です。」

この思ひ掛けない提言を耳にして、餘りの嬉しさにトルドーは暫し茫然とする許りでした。ドクトル・オスラーの言は實にトルドーを欺きませんでした、オスラーの手紙の墨痕が未だ乾かぬ内に、焼跡の灰が未だ冷えぬ内に、耐火建築の研究室が早くも建設を保證されたのです、トルドーの喜びはどれ程でしたて

せうか。火災の厄難と、不時の發病に打ちひしがれたトルドーを慰めたものは、
 どればかりではありませんでした。彼れが初めて細菌學の教へを受けたドクトル・
 ブルッデン氏の門下生は、トルドーが火災の爲めに顯微鏡を失つた事を聞いて、
 職金して彼れの病床に顯微鏡を贈つて來ました、それに附いて來たドクトル・ブ
 ルッデンの手紙が實によくトルドーに對する親しみを現はして居ます。

「親愛なるトルドーよ」

大學研究室に於ける我々一同は、君にクリスマス、プレゼントを贈呈し度い
 と思つて居る、そして、その心持はクリスマス迄待ち切れない程熾烈である。
 何故に我々の考へがさう一決したのか、君の仕事を尊重するが爲めか、又は君
 が我々の交友の誰よりも元氣者であるが爲めか、又は君が平素から我々の益友
 であるので常に君を驩迎し度いと思つて居るが故か、又は……、要するに、有
 様は、我々が君を好くが故である、そして、それを君に知つて貰ひ度いと思ふ

が爲めに茲に我々一同は打ち揃つて、早々とクリスマスの祝詞を呈するのであ
 る。」

も一つ、トルドーの災厄が如何に世人の同情を招いたかと云ふ實例をお話し
 ませう。彼れの住宅は火災保険を附してあつたのですが、出火の原因を保險會社
 が取調べた所によると、留守番を置かずに家を明けたばかりでなく、宿直の居
 ない實驗室に石油ランプを點けつばなして置いたといふ廉によつて、彼れは保險
 契約に違背して居たので、トルドーも保險金は當然支拂を受け難いものと觀念
 して居たのです。然るに意外にも保險會社は特に至額を支拂ふ旨を通告して來ま
 した、それは、トルドーの災難が世間一般に知れ互つたので、若しも會社が嚴
 格な態度に出ると却て社會の同情を失する虞れがあるので、トルドーに禮狀を
 認めさせそれを世間に發表するといふ條件の下に破格の取扱をしたのでありま
 す。この保險金が住宅新築に多大の助けとなつた事は云ふ迄もありません。

このやうに、トルドーはあらゆる方面からの同情と援助に慰められて、辛い病牀の幾旬を過した後、十二月も押しつまつてから、漸くサラナック・レークに戻つて來ました。懐しい我家も記念すべき實驗室も跡形もなく焼け落ちて、灰燼の中に煙突だけが寂しく立つて居るのを見た時、トルドーの胸の中はどんなてしたらう。しかし、友人知己の優しい交情に災厄の傷痕を癒すことの出來たトルドーは、天性の樂天主義を振り起して、すぐさま、妻君と共に住宅建築の相談を始むると同時に、助手のポールドキンと共に、實驗室の設計に着手したのです。實驗室の設計も設計ですが、さり逆、建築の出來上る迄研究を止めて居る譯にも行きませんので、假住居のクーバー氏のカッタージの隣りに小さな物置を造つて、そこに水管を引き込み、暖爐を据えつけ、解射器も買ひ整へて、從前の通り菌培養やら動物試験に着手し始めましたが、乏しいトルドーの財源は十分な研究を續ける事を許しません。幸ひに友人三名の寄附金によつて、辛くも實驗用

傳りの實
驗室

の動物や、藥品や、硝子器具の買入れを爲すことが出來たのです。

翌年(千八百九十四年、トルドー四十七歳)の夏も、例によつて、ポールスミス村に轉居して、トルドーは病體をも厭はずに活動を續けましたが、彼れの健康は哀れなものでした、前年の紐育での發病は未だ本當に恢復したとは云へません、いえ、一生涯全治しなかつたばかりでなく、この病氣が次第に全般の健康を損する原因となつたが爲めに折角癒り掛けた肺病も亦頭を擡げ初めて、間歇的に輕微の發熱があるといふ状態に後戻りをしました、彼れの晩年十年といふものは、この二つの病氣の爲めに、惱まされ通しだつたのです。こんな病狀でありながら、トルドーは、ポールスミス村に來る新知己舊友に對してサナトリウム擴張基金と維持費の寄附勸誘に全力を盡さなければなりませんでしたが、資金調達の責任は全くトルドーの双肩に掛つて居たのです。次の話などは、トルドーが如

何に寄附金の勸誘に努めたか、サナトリウムがどんな経路を辿つて發展改善されつゝあつたのかを最もよく物語るものです。

この年のポールスミス滞在中に、トルドーはサミュエル・インズレーといふ實業家を診察した事がありました。インズレーといふ人は宏量な仁侠的な實業家でしたが、トルドーのサナトリウムの話を熱心に傾聴して、終に同道してサラナック・レークの視察に出掛けました。その歸り途にインズレー氏はトルドーに對して、餘人の寄附しやうもないもので貴君の欲しいと思ふものはありませんか、あれば私が寄附し度いと申出でをした結果、それなら洗濯所を一つ御寄附を願ひ度いと云ふトルドーの希望によつて直ぐ様一千弗の寄附をしたのです。現在では、鐵筋コンクリートの洗濯所に建て替へられて居ますが、創立當時はこの一千弗の洗濯所で十分用立つて居たのです。

次の年に又インズレー氏はトルドーと共にサナトリウムを視察して、前年と

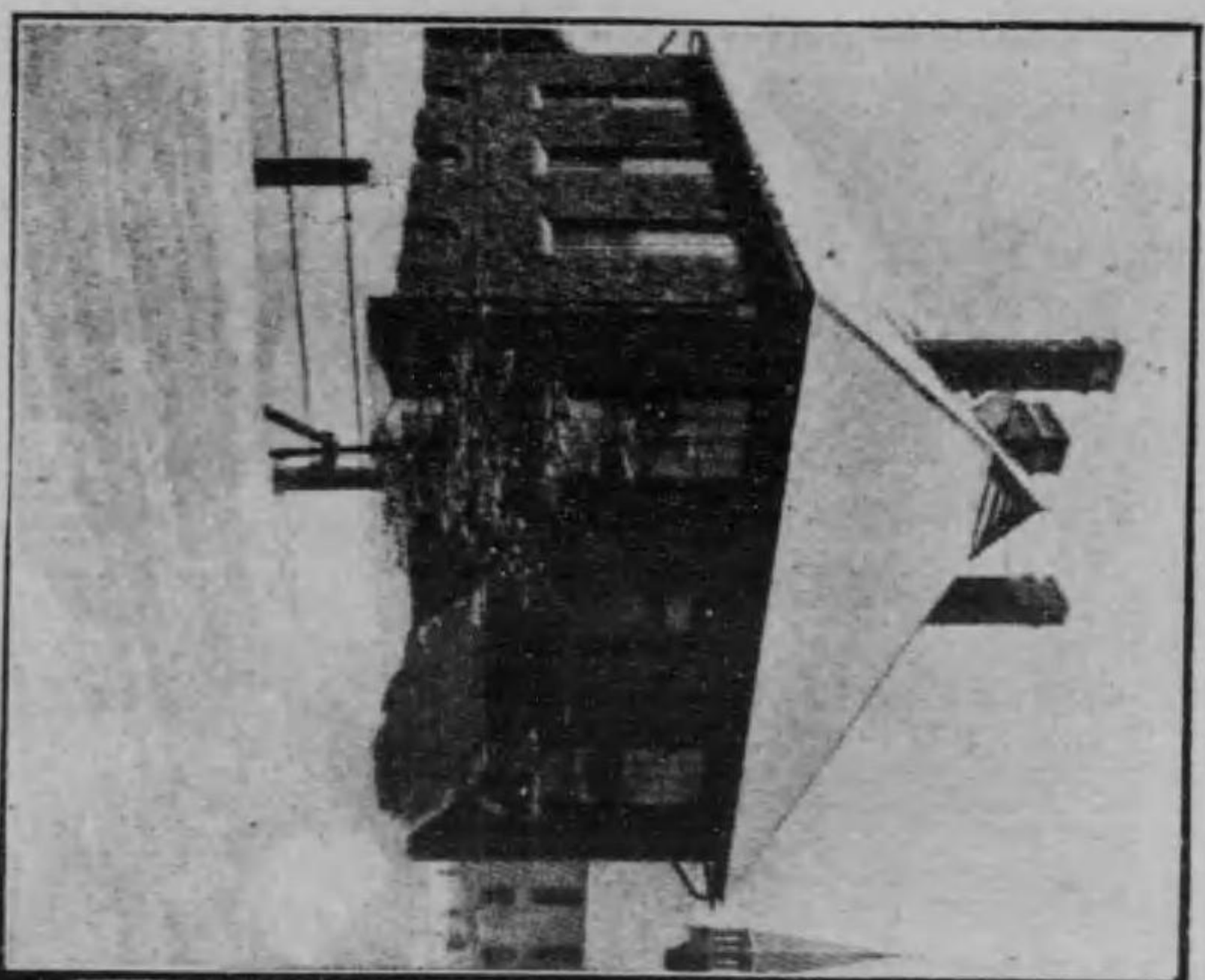
水道及防火設備

同様の申出でをしました。これに對してトルドーは、洗濯所よりも遙かに大規模なる水道及び防火設備を希望したのであります。インズレー氏はこの希望を聽いて言下に、よろしい私が御引請けしませう、工事の監督は貴君には御無理でせうから私の方から技師を差出しませうと即諾をしました。技師は直ぐに派遣されて工事に着手したのですが、その工事はサラナック湖から約一哩の間を、硬土層と岩石とを穿つて、深さ六尺の溝渠を開鑿するといふ大工事であつたのですが、同氏は全部の工費を支拂つてサナトリウムの水道及防火設備を完成して呉れたのです、トルドーは工費全額が幾何に達したかを知りませんでした、開渠の費用だけでも確かに一萬弗を超過した筈だと自敘傳に記して居ます。インズレー氏はその翌年に肺炎の爲めに急逝しました、その記念として同氏の兄弟がカッタージ一棟を建設してサナトリウムに寄附しました。

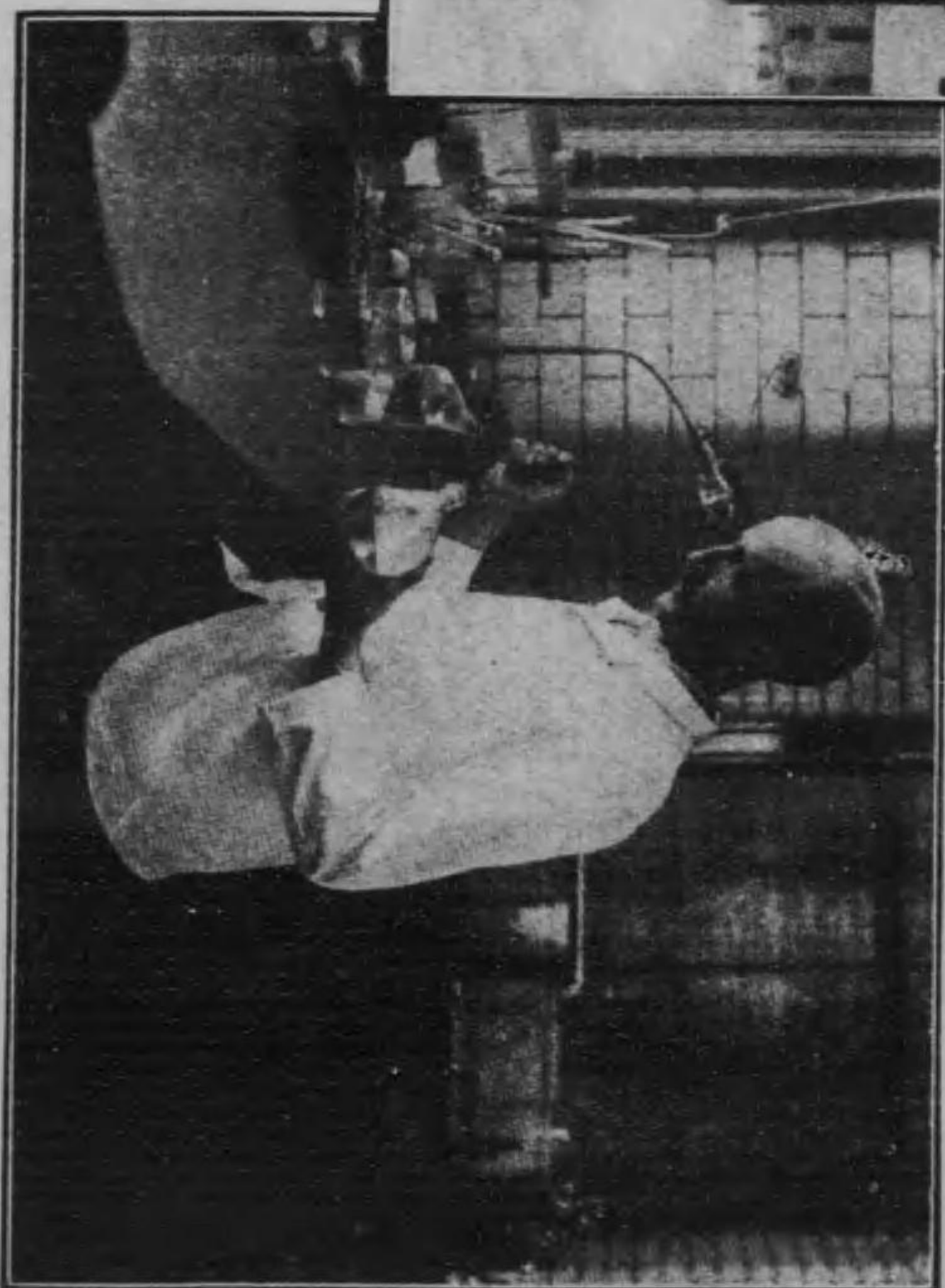
敘上のトルドーとインズレーの關係を讀んで感服させられるのは、歐米人の

恬淡なる
寄附氣質

恬淡な寄附氣質であります。避暑旅行中に一寸した病氣を診て貰つた事が機縁となつて、その醫師のサナトリウム事業の計畫に耳を傾ける、そして、その計畫が社會的意義のあるものであり計畫者が純真な魂の所有者であると判つたら、何か寄附させて貰ひ度いと放膽な申出でを敢てする、洗濯所よろしい、水道もやりませう、防火設備も引請けませうと、欣然として惜氣もなく資財を投じて、しかも、その金額の多寡は自分一人が知つて居るのみで何人にも發表しない。悪く云へば、寄附者は唯自分の本能の一部の寄附慾とか慈恤心を満足させればそれで本望だと考へて居るかと思はれる位に恬淡な寄附氣質が屢々歐米人の間に認められるやうです。日本でも、宗教を背景とする場合には可なり恬淡な、といふよりは盲目的な寄附氣質が發揮されるやうですが、宗教又は政治的色彩の無い社會事業に對してはどうも寄附心の發動が鈍いやうです。この原因を國民性の相違に托すべきか、否やは一考を要する點かと存じます。



サラナック結核研究所



實驗室のイメージ

トルドー一家は、千八百九十四年の秋にサラナツク・レークの新宅に移りました。研究所の方も秋には殆ど竣工に近づきました、研究所は第十二圖に掲げたやうに鐵骨石造瓦葺きの耐火不燃建築で、内部は白色の焼き煉瓦で疊み、設備としては、自製式解卵器、瓦斯、電氣、その他あらゆる最新の考案が遺憾なく施されました。これならば最早不死鳥の奇しき例を再び繰返す氣遣ひはありません、この建物を正式に呼ぶとサラナツク結核研究實驗所 (Saranac Laboratory for the Study of Tuberculosis) といふのであります。扱、研究所が竣工すると、直ぐトルドーはボールドキンと共に、小さな物置の實驗室から、この壯麗な新築に總べての器械を持ち運んでその日から致々砑々と又研究に取り掛りました、米國に於ける最初の結核研究所は、このやうに、いとも簡略に何等の儀式もなしに開館されたのであります。

茲に特筆しなければ成らぬ事は、この研究所に對するトルドーの見解であります。トルドーの考へとしては、研究所は純正なる科學研究設備であるから、これには絶対に營利的色彩を帯びさせては成らない、他の言葉で云ふなら、研究所の製出物は如何なる場合と雖も絶対に販賣しては成らないといふ事を、ポールドキンと相談をして、爾來これを研究所の憲法としたのであります。故に、各方面から培養菌やら、ツベルクリンやら、血清やらを絶えず所望して來ますが、信憑すべき筋より眞面目なる研究材料として要求せらるゝ場合のみ、快く承諾して無料で送附し、あとは全部謝絶して一品も所外には出さなかつたのであります。このトルドーの方針は實に不謹慎なる結核治療界に冷水三斗を浴せかけ、射利本位の製劑研究者に當に頂門の一簣の概があるてはありませんか。曩きにコッホのツベルクリン免疫説の發表を輕躁至極なりと攻撃したトルドーは、實に人を

研究所の憲法

責めるに嚴なると同時に、己れを持するにも亦頗る嚴なるものがありました、かかるが故に、世人を迷はす虞れありと信じたならば、自己の研究所の製劑の販賣を一切禁止して迄も、研究者としての自分の立場の公正を嚴守したのであります。若しも、トルドーがかゝる慎重な態度に出でずして、サラナック研究所製劑の銘を打つて、ツベルクリン等を市場に販賣したならば、どんなに、當時の米國の結核治療界を賑はせたてありませうか、そして、その結果どんな失望と怨嗟とを招いたてありませうか。しかし、慎重なるトルドーは決してコッホの輕躁の轍を覆ひの愚をしませんでした。飽く迄純正科學の立場に踏み止まり、營利的雰圍氣から超然として、靜かに研究の歩を進めたのでした。この慎重さ、この高潔さを若しも結核治療界の各人が幾分でも保持して居たならば、コッホ病原菌發見以來の結核界は今日の混亂惑迷を招かなかつたのでせう。なぜかと云ふのに、過去四十年間に結核根治又は免疫を目的として、發表され賣り出された藥劑は幾

千種に上つたか判らないのですが、トルドーが「過ぎし三十年を回顧すると、体内殺菌を目的とした特效薬が名乗りを揚げたかと思ふと、忽ちに泡沫のやうに消えうせた例はどの位の數に達したか判らなかつた……」と云つて居るが如く、又、原博士がその著「肺病豫防療養教則」に於て

「實に既往數百年間、吾こそは肺病特效薬を發見せんと、或は之れを草根木皮に探り或は細菌學理に據り、或は化學的藥品に求め、其の發表せられたる藥品は數千種以上の多きに達し然も決して其全部が摸索的不稽の物のみには非ず、屢々療法上の論理整然として學說上の根柢確固たる物少からざりしにも拘らず、此れを實際に用ひたる臨床上の經驗は、常に決して理論と伴はず、多くは何等認む可き效力無き儘、忽ちにして其無効を暴露し、數年を経れば其薬名さへ世人に忘却せらるゝに至れり。」

「然も歴史は繰返へすの諺の如く最近に續出しつゝある新薬に於ても亦悉く

然り。例へば發見當時恰も神薬なるかの如く稱せられたりし「ヘトール」療法は如何、「チアノクプロール」療法(古賀液)は如何。況んや其他の新療法をや。例へば「カルシウム」療法の如き幾分の根柢を有するが故に、現に世上に風傳せられつゝあるに拘らず、吾人が臨床に數年間の偽り無き經驗に據れば、未だ「カルシウム」療法にて根治したる一人の肺患者をだに知らず。更に況んや其他の俗悪なる新療法をや。唯是れ何等の根柢も無き暗中摸索的療法に過ぎず。唯巧妙なる廣告を以て好奇に渴する世人の眼と、惑ひに惑へる不幸なる肺患者の心理とを捉へて、僅かに其命脈を保ちつゝあるに過ぎず。」

と記されたやうに、宛然線香花火にも似たる果敢ない運命を以て、はなはしく發表されては直ぐに消え失せて了ふ所の肺病特效薬は、若しもその發表者がトルドーの十分の一の眞面目な態度を持したならば、いづれも世の中に發表し又は發賣すべきものではなかつたに相違ないのであります。然るに研究者が善意なる

一九四
輕率の爲めか又は悪むべき營利の衝動に驅られてか、無数の特效薬は相踵いて社會に提供せられ淘汰隠没せられて了ふのです。この間の消息を最も簡明に立證する一二の例を擧ぐるならば、微菌を病原として居る病氣の内、眞に治療上の特效薬のあるのはチフテリアだけですが、その特效薬たるチフテリア血清は現在果して所謂肺病特效薬の如く、某々博士の推奨、某々薬舗の廣告の下に發賣されつゝあるてせうか。また天然痘豫防の特效薬たる痘苗は現在果して新聞一頁大の大廣告の力を藉りて普及されて居るてせうか。否、決してさうではありませぬ。チフテリア血清又は痘苗の如き公認されたる眞實の特效薬と云ふ物は、巧妙なる廣告術を利用して世間に賣り弘める必要は全然ないので、かゝる名薬は黙つて居ても世上から放つて置かるべき筈はなく永久的の生命を自ら保有して居るのであります。この事實から推論するならば、薬劑の價値は廣告費の多寡にいつても逆比例するといふ事が云へます。しかし、悪むべきは詐偽的特效薬の商賣人ばかりでな

く、この商賣人の依頼に應ずる廣告業者も大に反省すべきものがあるので御座います。次に「米國の大詐偽」と題する本から數行を摘譯する事にします、この本はS、H、アダムスといふ人が米國內の賣薬詐偽の内幕を遺憾なく摘發した頗る面白い書物でありますから御希望の方は讀み下さう。(The Great American Fraud, by Samuel Hopkins Adams, Publishers: American Medical Association, 535 North Dearborn St., Chicago.)

「千九百年の調査によれば米國々内の賣薬年産額は五千九百六十萬弗に達して居る故に現在(千九百五年)に於ては尠くも七千五百萬弗に増加して居ると見て過大ではあるまい。この金額は卸賣價格であるから、小賣値段に換算すれば、我が米國は一年間に最低壹億弗の賣薬を消費するものと考へなければ成らぬ。そして、我々が支拂ふ賣薬代壹億弗の内四千萬弗は新聞社が廣告料として收入するものなのである。米國內に於て年間廣告料壹百萬弗以上を支出する賣薬會

社が甚くも五軒はあるので、ボストン市のネルフラ商會が破産した時は新聞社に廣告料の借金が五十三萬弗あつたといふ事である。實に、賣藥詐僞の商賣の種は廣告である。世の中の新聞、雑誌、醫學雜誌の類がこの種の廣告を謝絶したならば、詐僞賣藥業は五年を待たずして消え失せて了つて、其結果、國民が生命と金錢の上で利する所は多大なものがあらう。實際、新聞や雑誌の廣告欄が無ければ、賣藥の大部分は素直に都合よくこの世から消えて無くなるに相違ないのであるが、悲しい事には、少數の高級雑誌と自立自尊を主義とする新聞以外の刊行物は殆ど總てが瞞着藥屋を歓迎して居る。欺され易い世間の馬鹿さ加減の度も知れぬが、一方に於て新聞の貪慾の程度も限りが無いと云へる。ハースト系の新聞だけでも一年に五十萬弗以上の収入を賣藥廣告から擧げて居り、市俄古トリビュン紙の如き割合に嚴格の方ではあるが、それでもこの方面から一年八萬弗を收入して居るので、多くの小新聞の如きは全然賣藥廣告で

喰つて居ると云ひ得るのである。彼等がこの有利な得意先に敬意を拂ひつゝある亦故なきに非ずである。我々が若しも新聞社主に向つて掲載廣告の詐僞である事を突つ込めば、必ず次の如き遁辭を構へるであらう、廣告欄の記事は廣告主の責任で當方では一切無關係で御座います、と。』
以上は幸ひに我が國の事ではなく貪婪なる米國新聞紙の話でありますから、大に意を安んずるに足ると思ひますが、誠にアダムス氏の言の如く、困つたものは詐欺賣藥、瞞着療法の誇大な廣告であります。米國の新聞などでも、恐らく論說欄では憲政擁護の筆陣を張り、經濟欄では不正商人の惡徳を摘發して居るのでせうが、廣告欄となると矢張り増收本位で瞞着藥屋の前に膝を屈するものと見えま

魔法の鍵

す、アダムス氏の痛歎慨息も故なきではありません。實に權威ある新聞の賣藥廣告は病床に迷ひ惑へる患者の巾着の口を開かせる魔法の鍵であります、この鍵が無ければ欺騙的賣藥は水を離れた魚の如く、翼を失つた鳥の如きものですが、

仲々この水魚の關係が絶縁できぬので困るのです。それとも、この位の弊害は新聞が社會に與へる大利益の代償として私共が辛抱しなければ成らないのでせうか。弱き惑へる病者は療養費の内から幾分づいても間接に新聞社に奉納する義務があるのでせうか。若しもさうだとしたなら、賣藥詐偽師の手を通さずに、直接に新聞社に獻納した方が金銭上の損害も少なく、第一生命の危険が救はれます。米國の結核協會などもこの點に留意して結核撲滅運動費の一部を割いて新聞収入を補助し、詐偽的肺病特效藥の廣告掲載を思ひ留まつて貰ふやうにしさうなものだと思ふのですが、そこ迄は考へて居らんやうです。この問題を書き初めますと痛憤の筆の留め度がありませんからこれで筆を擱きますが、米國の賣藥詐偽の内幕に就ては他日稿を改めて諸賢の一察に供する機會があらうかと存じます。

話は餘談に互りましたが、再び、サラナック研究所の條に筆を續けます。

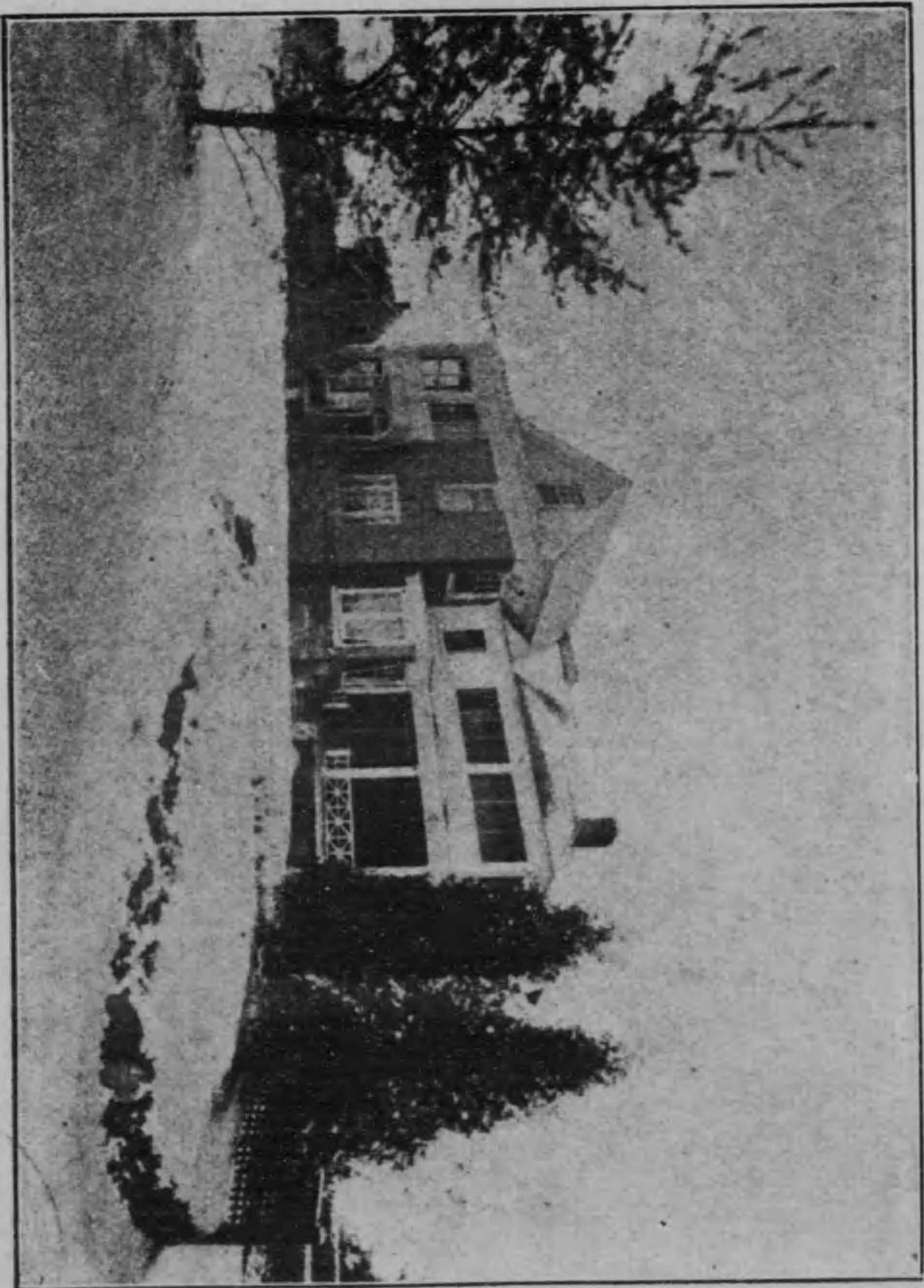
絶対に商賣氣質を離れ一切の收入の途を絶つたトルドーの研究所は、勿論基本財産としては無いのですから、當然の結果として經費の點で行き詰らざるを得ません。この苦境をトルドーはガレット氏、ホー夫人、クーバー嬢等の援助によつて、幸ひにも経過する事が出来たのですが、後にアンダーソン夫人といふ後援者が現はれて、研究所の毎年の經費を引請けて呉れたので、トルドーは初めて意を安んずる事が出来ました。

サラナック研究所は、前述のやうに、トルドー及びその門下の結核研究の本營であつたと同時に、療養の爲めにサラナック・レークに来る多くの醫師に對して、指導啓發の職分をも盡したのです。それと云ふのは、研究所を、それ等の醫師に開放して自由の出入を許し、ドクトル・ポールドキン及びドクトル・クワウゼの指導の下に各自の希望の研究をなさしむるといふ頗る進歩せる方法を講じたと同時に、毎年冬期の二週間を期して、サラナック・レーク附近の醫師を招待し、

研究所の職分

最も親密なる會合の下に、學術治療上の意見の交換を企てたのであります。かかる指導啓發によつて、如何に多くの有益なる研究が成就されたかといふ事は、トルドーの六十回誕辰の祝賀晩餐會の折に、彼れと同僚門下生が千八百八十七年から千九百八年迄の廿二年間に發表したる研究論文七十篇を、上下二冊の美しい書卷に纏めて、トルドーに贈呈した事によつても判るのであります。

第十三圖



レゼンシオン・ホスピタル

九、トルドー・サナトリアムの

治療方針と財政問題

扱、こゝで申上げて置かなければ成らぬ事は、トルドー・サナトリウムが、何故非人情にも重症患者を收容する事を嫌ふのか、慈善恵恤を主義綱領として居る彼れのサナトリウムが、恢復の見込のある初期患者だけを收容するのは表看板と矛盾する遣り方ではないかといふ疑問に就てあります。この問題に關してトルドーは次のやうに意見を述べて居ます。

「一八八〇年の遠い昔に、私がビスガの丘の狐狩の獵場に行んで、同病者の爲めに小さな療養設備を建てやうと腦裡に空想を描いた時には、私の考へは唯單にサラナック・レークの地に轉療し得ない貧窮の患者を經濟的に援助し度い

といふに在つた、云ひ換へれば、私が味ふ事の出来た健康恢復の悦ばしい機会を何とあつたして他の同病者の手の届く處に齎し度いと云ふにあつた。然るに後に私がフレイメルのサナトリウム事業を識つてからは、經濟的に同病者を援助すると同時に、フレイメルの安静空氣療法をそれ等の患者に適用して見やうと決心し、茲に私の計畫に對する二大方針が確定したのである、即ちその内容に於て慈悲的であるのみでなく、同時に病氣を阻止し治癒させる事を目的としたのであつた。」

「然るに自分がサナトリウムを開く迄は、結核患者に對する設備と云へば末期の患者を收容して面倒を見るといふ事に止まつて、それより以上に進んで積極的の企てをするといふやうな事は絶対になかつたのである。故に如何なる種類の病期の結核患者も皆同一の病院に收容され治療されて居たので、社會一般の觀念としては、結核患者は愈々もう自分で薬も飲めぬ程度に病が進まなければ、

入院患者の初期に其限性に入る

肺病々院には入院せぬものと見做されて居たのであつた。」

「しかし、自分の考へとしては、治療上の目的を收めやうとする爲めには、入院患者を出來得る丈け、初期良性の者に限局して、急性及び末期の患者は氣の毒ながら拒絶しなければ成らぬといふ方針を自認せざるを得なかつた。この方針を採つたが爲めに、自分は醫師仲間から可也の非難攻撃を受けたのである、トルドーは怪しからぬ賣名の徒である。トルドーは治癒す可き患者のみを選んでこれを治癒させ自己の名聲を高めつゝあるものだといふ中傷を蒙つたのである。現在ですら、入院志望者を不適應症として拒絶すると、その患者及び主治醫は、サナトリウムを憎み罵る場合が多い。しかし、この世の中に生くる以上、過てる批評の矢を避くる事は出來ない、自分達は評者の良心の曇りの去る迄、静かに辛抱しなければならぬのだ。」

「私が多年入院患者の鑑定診断に従事した間に、最も困難を感じたのは實に入

入院拒絶の苦痛

入院を拒絶するといふ場合であつた。しかし、入院患者の選別が嚴重に精確に勵行されなければ、このサナトリアムの使命職分を十分に發揮さす事が出来ないのだといふことを自分は確信して居たが故に、苦痛を忍んで不適應患者の入院は拒絶した。サナトリアム療法は宏大無邊ではない、その有効の限界は初期良性の患者に在るといふ原則は今や各州々立の療養所及び多くのサナトリアムによつて承認されるに到つた、即ち其等のサナトリアムの目的とする所は出來得る限り多くの患者を有爲の生活に復歸さすに在る、そして重症患者に對しては、サナトリアム以外に別に他の收容設備が用意せらるゝに到つた。入院志望者の病状を檢査して、適應症丈けに入院を許し、然らざるものを謝絶するのは、成る程トルドーの云ふやうに、可也残酷な事に相違ありません、しかし、この冷酷な、一面から見れば、見込ある者にのみ救済の手を延べ、然らざる者を排除するといふ、人命を秤りに掛けたやうな打算的らしい治療方針が、

サナトリアムの職分

サナトリアムの根本方略である事を忘れてはなりません。これを冷酷と評し計算的と罵るのは、肺病撲滅組織上のサナトリアムの立場を知らない者の言葉であります。肺病撲滅組織とはサナトリアムを中心として、前陣には檢診所といふ初期の内に結核患者を發見する設備があり、後陣には療養コロニーの如き恢復期患者の勞働設備の類やら、重症ホームと呼ばれる、重症患者の收容設備やら其他各様の機關が相列んで組織せる一體系を云ふのであります。この社會的組織の事は他日一冊の書物として詳述し度いと思つて居りますから茲では申述べる事を避けまします。この組織の中でサナトリアムの職分は「早期に治療すれば肺結核は必ず全治し得るものである事を事實に於て立證し鼓吹する爲めに患者を治療教育する」に在るのです。最も進歩せる肺病撲滅の社會運動は最早や結核必治の特効藥發見などの空頼みをせずに、結核早期治療といふ實際的教化運動に移つて居るのであります、サナトリアムは實に其中心機關なのであります。トルドーは遠き以前

に既に結核撲滅機關としてのサナトリウムの上述の職分を自識し、そこに確固たる信念の根を卸して、敢然として入院患者の嚴選を行つたのであります。加ふるにトルドーはサナトリウムに就て名利上の邪念を寸毫も有して居ませんしてした。彼れは前にも申上げたやうにサナトリウムから一文の報酬を受けず、家族扶養の費用は別に自分で稼いで居たのですから、營利的な不純な觀念がサナトリウムの經營方針に混入して來る虞れは毛頭ありません。かゝる公正無私の態度と毅然たる信念があつたればこそ、トルドーは忍び難きを忍んで、嚴重なる入院患者選別を行ひ、不合格者に對して入院拒絶の宣告を下し、又、世間の漫罵妄評にも泰然として抗し得たのかと思はれます。しかし、當時の人は次の如く云つてトルドーを攻撃したでせう、「治療の見込のある者丈けを治療して、そして治療成績の優良を誇つた所で、それがなんになる、醫師の天職は危篤な者を救済し瀕死の者に回生の機會を與へるに存するのではないか、トルドーは自己の主宰する

早期治療の困難

サナトリウムの名聲を發揚する手段として、幾多の入院志望者の熱求を冷然として斥くる丈けの非人情をも敢てするのだ」と、かやうな非難攻撃は、可也手ひどくトルドーの身邊に肉迫したに相違ありません。成る程、治療の見込のあるものを治療させるのは、當然すぎる程當然の事のやうに思はれますが、いづくんぞ知らん、結核療養問題の一番大切な所として最も困難な點は、前にも申上げたやうにこの早期發見、早期治療といふ事に歸結するのであります。早い内に病氣を發見して相當療養の手段を盡せば、癒り易いものであることは、今更云はずとも、悉くの人が知り抜いて居る程通俗平凡の事柄であつて、諺にも、嫩葉の内に刈らずんば斧を用ふるに至るとか、今の一針先の十針とか、その他いろ／＼の諺が油斷大敵の痛害を教へて居ます。しかし、「禍を未發に防ぐ」といふ事は、悲しい事には、やゝもすれば人間の性情に反した教訓なので、總ての災害が未然に防がれて了つては、我々の社會は可笑しいやうですが平凡沈滞を極めて甚だ物足らなく

なるのです。人間の好奇心とか劇的興味とかを満足させる爲めには、禍ひを未發に防がずして、大厦の覆るのを一木を以て支へたり、狂瀾を既倒に廻らせたりする奇蹟的な出来事が必要なので、病氣の場合もその通り、人間は極く初期の内に療養の手を加へるといふ慎重の態度を嫌ひ、愈々せつば詰つた重態に於て起死回生の手品を巧みに使ふ事を喜び、その場合の手品師をあつばれば天下の名醫よと喝采するのです。況んや肺結核の場合に於ては、病勢は非常に隱微の裡に少しの苦痛をも感ぜしめずに進行するといふ特徴を有する爲めに、兎角に早期治療を怠り勝ちとなる傾向がある、猶その外に、も一つ、肺結核を過度に恐れ嫌ふ先天的誤解の爲めに、病勢の進行は自識して居ながらも、現實暴露の恐怖に脅かされて、一日送りに療養を延ばすといふ誠に憂ふべき傾向が、この病氣の場合に認められるのであります。

若しも肺結核の症状の一つとして、初期の間に必ず咯血するとか、胸部に激痛を覺えるとか、呼吸が切迫するとかいふ誰も打ち捨て置き難き現象が発生するならば、肺結核の療養は現在よりも遙かに行届き、その結果として死亡率も遙かに減少して居るに相違ありません。又、世間の肺結核に對する感じが、チアス、赤痢に對すると同様であるなら、その療養方法も現在よりはもつと公々然と行はれ、その結果として周到適切なるを得るのであります。チアス、赤痢等の恐べき傳染病に對しては格別狼狽の色を示さない人達も、肺結核と聞くと一種の恐怖と不安に襲はれて、やゝもすれば見當違ひの治療法に奔るのであります。これは何故かと云ひまするに、前に述べたやうに、肺結核の病勢進行が非常に緩慢隱密である事と、世人の肺結核に對する考へが正當でない事とが主なる原因をなすのであります。故に、肺結核療養に當つて最も大切な事は、病勢の未だ甚しく進行せぬ内にこれを發見して適切な治療を加へるといふ事です。トルドーはこれに就て次のやうに云つて居ります。

トルドー：サナトリアムの治療方針と財政問題

病氣の早期発見は、治療の好成績なるを基礎とする

「サナトリアムの創立當時、視察に来る醫師の仲には時々「あの患者達は一體病氣なのですか」と戯談に問ひ掛ける人があつた。實際、私の患者達は一見病人とは思へぬ程の輕症者が多かつたのであるが、私がサナトリアムの治療方針を確立した以來我々を欺かざるものは「病氣の早期発見は良好なる治療成績の基調を成す」といふ事實であつた。人類の大部分は四十歳に至る迄の間に何時かは結核に冒されて居ながら知らぬ間に癒つて居るといふ現象は、ツベルクリン診断やX光線試験や又は屍體解剖の結果の等しく確認せる所である。それ程、結核は治療し易き病氣なのである。病勢が或る程度を越すか又は病質が急性である場合でも、よしや完全な満足な結果は得られぬにせよ、サナトリウム療法等を以てすれば人壽を延す事は可能であるが、初期に於て適切な治療を加へるの萬全なるに若くは無い。」

初期治療の緊要なる事は紋上の如くであります、しかし、初期に於て療養を加へて完全に恢復したとしても、その人が、結核病の性質、發病の由來といふ問題に關して無知であつたなら、再び病氣を發生させるやうな機會をつくり出すかも知れません、茲に於て、サナトリウムに於ける肺病教育の必要、云ひ換へれば、療養生活中の肺病研究の必要といふ問題が起るのであります。度々申述べた事ですが、肺病が癒つたといふ事は、その手段方法の何たるを問はず、患者の榮養が恢復し病毒に對する抵抗力が増進した爲めに、病勢の進行を喰ひ止め、病菌を封鎖し得たといふ事に過ぎません。決して、病根を去除し、又は病毒に對する完全免疫を成立させ得たのでは無いのであります。唯、單に病を喰ひ止め一時これを封鎖したといふに過ぎませんから、其後に於て再び、その人の榮養が衰へ、抵抗力が減れば、病菌は封鎖を破つて活動を開始するのは乍殘念當然の事でありませぬ。茲で起る問題は、それなら、どうすれば一時の封鎖を永久に持續し得るか、云ひ直せば、どうしたら、病氣の再發を豫防し得るかといふ問題でなければなり

肺病教育の必要

トルドー：サナトリアムの治療方針と財政問題

三二二
ません。此の問題を正しく理解し、獲得しなければ、いくら醫者から、もう貴君は
全快しましたから退院なさいと保證をされたからと云つて、その保證は一時の氣
休めに過ぎないのです、なんとすれば、肺病の再發を絶対に防止するといふ治療
法は、過去は勿論將來に於ても、天下何處を求めても決して存在しないのであり
まして、病氣を一時閉塞させ得た後の患者の生活方法、攝生方法の如何によつて
は、如何なる名醫が太鼓の判を押した全快も、ともすれば再發の涙にかき曇らさ
れる實例は、餘り屢々起る悲劇なのであります。かく申しますと、仲には、それ
は徒らに人を虚喝するの言であると思はれる方があるかも知れませんが、なる程有
耶無耶の裡に療養生を終つて、病氣の本體、治療の目的等に就て少しも啓發さ
るゝ所もなく、その儘、病前の生活に復歸して、再發の悲みにも遭遇せずに無事
に一生を了る人々は、或は再發の不幸を見る人々よりも、遙かに多數でありませ
うから、さういふ人達から見れば、前述の言は杞憂に過ぐるものとも、又、虚喝

結核撲滅
運動と肺
病教育

に等しいものとも思はれるかも知れません。しかし、療養中に再發豫防の攝生方
法を會得しなかつたにも拘らず再發の憂き目を見ないで無事の生涯を送り得た人
人が多數であるからと云つて、療養中の肺病教育を必要としないといふ議論は成
り立たないのであります。患者療養中にこれに肺病教育を施すといふ事は、實を
云へば、その個人に病後の生活指針を授けるばかりでなく、今猶世の中に瀰漫
して居る肺結核に對する誤解謬見を打破する社會的運動の一助として、斷じて忽
にしがたい問題なのであります。肺結核撲滅と一口に云ひますが、これ程困難な
問題はないので、やれサナトリウムを増設しろとか、施療院を設備しろとか、大
抵同じ型の議論が結核撲滅問題の解決策として反覆力説されて居ますが、いくら
サナトリウムを増設した所で、入院患者に肺病教育を施さず衛生的生活方法の理
解を與へなければ、サナトリウムの利効は患者入院期間中だけしか存続しないの
でありまして、サナトリウム建設の眞の目的は、國民の生活方法を全部サナトリ

二一四
アム式に改造するといふ大抱負に歸着しなければならぬのです。この抱負は必ずしもサナトリウム大増設の暁を俟たずとも、現在日本の療養所が、治療と同時に、患者を教育するならば、正しく肺病療養を理解しサナトリウム式衛生々活方法を體得した患者の一人一人が、退院後に近親隣人を教化し善導するといふ事によつて、漸を追ひ序を次ぎ、肺病撲滅の大理想を實現する事が出来るのです。蔘かぬ種は生えませんが、蔘かれればたつた一粒の種でも、それが生育して雲に聳ゆる大樹となつた好箇の實例は、アディロンダックに於けるトルードの事業ではありませんか。獨逸のアレーメルの蒔いた種子が幾千里の海山を越えアディロンダックの吹雪の中を飛んでトルードの島に落ちたばかりにカッテージ・サナトリウムの根を卸し、地方開發の花を咲かせ、結核撲滅運動の葉を茂らせたのであります。我が邦の肺病療養界はアレーメルの種子を受附けない程荒蕪磽确を極めて居るのでせうか、トルードの芽生を培ふ者が一人も無い程寂寥々たるので

せうか。

以上申述べましたやうに、患者の病氣の初期の内にこれを發見して治療を加へる、そして治療と同時に肺病教育を施すといふ事は、肺病撲滅運動の大本を成すものであり基礎をなすものなのであります。この實行機關をサナトリウムと名づけるのであります。ですからサナトリウムといふ看板を掛けても紋上の職分を盡さないものはサナトリウムではありません、我々に智育德育を授ける學校にも一から切まであるやうに、サナトリウムと云つても海岸旅館の類からトルード・サナトリウムのやうなものまで其内容は千差萬別でありますが、苟もサナトリウムと看板を掲げる以上は、せめてその入院案内書だけでもサナトリウム本來の意義を聲明して貰ひ度いものであります。参考の爲めに次ぎに、トルード・サナトリウムの入院案内書の一節「治療の目的と方法」を記載させう。

◎トルード・サナトリウムの治療の目的と方法

トルード・サナトリウムの治療方針と財政問題

「當サナトリアム創立者の目的は、初期結核患者にして療養費の豊かならざる人々に對し理想的の境遇に於ける轉地療養の特効、並びに正規的の外氣生活、醫師の監督及び結核療法中最も是認せられたる治療法の利効を與へんとするものにして、簡單なる薬餌に加ふるに、退院後の再發を防ぐに極めて必要なる自製コントロールの習慣を患者に附與せん爲めの教育薰陶を以てす。治療の傍ら患者に技藝手工を習得せしむる設備あり。當院は病院の設備にあらざるを以て、絶えず看護の必要ある就床患者急性患者は收容し難し云々」

かくの如く、トルドー・サナトリアムの入院案内書には「患者退院後の再發を防ぐに極めて必要なるセルフ・コントロールの習慣を附與する爲めの教育」を施すと明記してあるのです。克己自制！この言葉は肺病征服の場合に於て實に王冠的な價値を有するのであります。チャルマース氏著トルドー傳に載せてある彼れが一青年の退院に際して與へた訓戒の手紙にも、如何に「自制」の二字を

力説高調して居るかを知らずしては出来ません。

「私の訓戒を重んじて、どうか、貴君の體力を餘り恃みにして下さるな。貴君は既に一度虎の爪牙に掛つたのであるから、再びその悲運を繰返さぬやう注意しなければ成らない、結核の虎は貴君のやうな有爲な人を幾人これ迄に斃したか判らぬのである。貴君は衝動的に意の越く儘に行動しては成りません、たとへ貴君の希望の計畫の總てを成就し難い場合でも、貴君はよく考慮して自製の戒めを忘れてはならない。貴君が一斤の麵麩を得られぬ時は半斤で満足する事をお努めなさい、さうしないと、麵麩はこんがり焦げて了つて貴君は結局其一切れをも口にする事は出来なくなる。」

右に掲げた手紙の文面は平易簡單のものでありますが、トルドーは患者の退院に際して殊に若き患者達が復活の舞臺に立ち戻らうとする際には訣別の印として紋上の如き訓戒の辭を贈るのを常としたのであります。このやうな手紙を受取つ

た退院患者の胸中には必ずや自製の趣旨を拳々服膺して決して院長の好意に反くまいといふ堅い決心が生ずるに相違ありません、この決心こそ再發豫防の唯一の神符であります、そしてトルドーは、この決心を自分の患者の胸奥に植ゑつける爲めには、醫師としての立場を離れて寧ろ親父の情を以てすべての患者達に接したのであります。千九百十年二月サナトリウム開設二十五周年記念祭の時に嘗てトルドーの治療を受けた千餘名の人々が彼れに賀状を寄せたのであります。又トルドーの歿後千九百十八年八月に千二百名の舊患者によつてサナトリウム本院の正面に彼れの銅像が建てられて、その礎臺には彼等の感謝の詞が彫りつけられたのであります。何と濃かな麗い醫師と患者との交情なのでありますか。

扱、大分話が横道に這入りましたが、サナトリウムが初期患者だけを收容するといふ事は決して治療成績を誇り度いと云ふやうな不純な淺薄な動機に出發するの

ではなく、肺病撲滅計畫の根本觀念に胚胎するのだといふ事は、前に述べた處で御了解を得た事と思ひます。トルドーはこの根本觀念を尊重した爲に常に苦しい思ひをして、入院患者の選別を嚴密にする事に努め、恢復の見込確實な者だけを入院させたのですが、さりとて不合格者も無下に拒絶した譯ではありません。それ等の人々が、サナトリウムに入院する代りに、サラナック・レークの村に適當な下宿を求めて療養に従ふやうな場合には、サナトリウムの醫員達は無料でそれ等の人々の診察をし療養上の指導をなす事を怠らなかつたのです。しかし、入院不合格の患者に對する處置としてはかゝる個人的の慰藉指導だけでは到底完全を期する譯には行きません。この缺陷を補ふ爲めに生じた組織が即ちプレスコット嬢の主唱になるレセプション・ホスピタルの設備であります、序ですから、一寸このレセプション・ホスピタルのことをお話しませう。

千九百年に近い頃、トルドー・サナトリウムの患者の内にミス・プレスコット

レセプション・
ホスピタル

トルドー・サナトリウムの治療方針と財政問題

といふ婦人がありまして、トルードー夫妻とは昵懇の交際を結んで居たのですが、療養が効を奏して幸に全快退院の時が来た際に、この婦人の胸中に次の考へが浮んだのであります、それは金に不自由の無い患者が全快すると兎角周囲の者共は再發を案じて無理遣りに其人を安逸遊惰の境遇に押し籠めて了ふが、自分の性情としては今後そんな無爲無能な境遇に安んずることを潔しとせない、何か有意義な仕事を見付けて自分の心持ちを満足させ度いものであると苦慮したのであります。トルードーはこの富める婦人の意嚮を察して、サナトリウム入院を拒絶された患者を救済する事業を企て、はどうかと勧めたのであります、それには、ブレスコット嬢は金に心配の無い人なのですから、サラナック・レーク村に一軒のカッテージを借受け、看護婦を雇入れ、そして、病状の進んで居る爲めにサナトリウムに入院を許されぬ患者を相當の費用で數名收容してはどうか、治療はサナトリウムの醫師が一切責任を負ふのは勿論である、若しこの企てが實現するならば、從

來何等考慮されて居なかつた所の不合格患者を慰藉し救済する途が初めて茲に開かれるのだと、トルードーは熱心に徳憑したのです。この提案をブレスコット嬢は直ちに容れて、早速一棟のカッテージを借受ける、看護婦を備ふ、そして一週六弗乃至七弗といふ名義丈けの入院料を取つて、先づ四名の患者を收容し、サナトリウムの醫師は一切無報酬で診療に従事する事としました、これが後に千九百五年に開設されたレセプション・ホスピタルの濫觴であります。レセプション・ホスピタルの建設は、ミス・ブレスコットが、自分の知己友人から資金の寄附を求め、不足分は自分の財囊から補つて完成したもので、その設計、構造、設備一切は模範的の名を辱かしめぬ完全なものだと云ふ事です。此の病院が出来た爲めにサナトリウム入院拒絶の宣告を受けた病人も、失望の代りに、心からの歓迎を受けて懇切な看護と熟練せる醫療とを加へて貰ふことが出来、更に又、患者の或者は相當の期間治療を受けた後に、サナトリウムに入院が許される程度に恢復する

事も珍らしくないのであります。この病院の經常費の不足はミス・プレスコットが補填し、唯、貧窮者に對する施療基金だけを一般有志者から募る事とした爲めに、同嬢の財政上の負擔は可也重大なものであつたのですが、彼女は少しも意氣沮喪する事なく何時も欣然としてその新使命の遂行に心の満足と平和を樂んで居たのです。僅か四名の患者を收容する事に發端したレセプション・ホスピタルの發展の徑路は、トルドー・サナトリウム發展の徑路と大小の規模を異にこそすれ、その内容は實によく似て居ます。即ち、出來得る程度に於て實行に着手する、そして、いつでも機會のある毎に擴張の準備を怠らないといふ方針が、計畫者の他意なき赤誠によつて美事に成功したのであります。

次に簡単にトルドー・サナトリウムの財政上の事を申上げ度いと思ひます。トルドーのサナトリウム經營の方針は、前にも述べた如く、營利的でなく慈

サナトリウムの經濟

恤救濟を旨としたのですから、患者から徴收する入院料は實費以下にする、そして、その間に等級をつけなくて一律一體に同等の取扱ひをするのでなければサナトリウム内部の規律の嚴肅を保ち得ないといふのがトルドーの最初からの方針でありました。この方針の下に決定された入院料は千八百八十五年には一週間に五弗でしたが、その後物價の昂騰、治療方法療養設備の改善に伴ふ經費の増加や、漸次に入院料の改定を餘儀なくされて、七弗から八弗に改正され、續いて十弗に、現在では一週間拾五弗と定められて居ます。

このやうに入院料を値上げしたから、その結果サナトリウムの經濟は樂になつたと云ふのに、決してさうではなく、寧ろ反對に毎年の不足額は増加して行つたのです、次にサナトリウム年報から數字を摘載して御覽に入れませう、左に掲げた缺損額は單に經常費の不足額なので、建設費の金利等は全然考慮されて居ないのです。又、規定入院料は食料病室費治療費を含むので、洗濯代、藥代等はすべ

トルドー・サナトリウムの治療方針と財政問題

て低廉な實費を徴する事になつて居ます。

サナトリウムの 損額	年度	サナトリウムの 損額	
		一年間 損額	患者壹人 一週間 實費
一九〇〇	一九〇五	九、〇八六、九四	七、五三
一九〇一	一九〇六	二二、〇三一、八一	九、九七
一九〇二	一九〇七	二二、八三二、三一	一一、一〇
一九〇三	一九〇八	二八、六六七、七六	一三、二九
一九〇四	一九〇九	四九、四一七、四四	一七、四五
一九〇五	一九一〇	三四、五〇一、六六	二二、六五
			週間規定 入院料
			五、〇〇
			五、〇〇
			七、〇〇
			八、〇〇
			一〇、〇〇
			一五、〇〇

然らば、この經費の不足はどうして補つて行つたのかと云ひますと、元來このサナトリウムは都會の華々しい慈善救恤事業とは違つて、人里離れた邊陲の地に生ひ立つた特殊の仕事なので、虚榮心を満足させる義捐や、名聞世評を狙

つた寄附に頼る譯には行きません、従つて上流婦人の組織する理事會と云つたやうなものもなければ、年々の寄附金を豫約した寄附者名簿も無ければ、公共團體の援助もありません。又サナトリウムの爲めに收入を稼ぎ出して呉れる附屬機關とてもありません。トルドーが自分の研究所を絶対に營業的に取扱はなかつたことは前に述べた通りでありまして、研究所の製劑類を商品として販賣し、それから生ずる利益を以てサナトリウム經費の不足を補填するといふ事は、格別悪い事とは思はれぬのですが、それすらトルドーは敢て爲さずに、如何なる經營上の難境に處しても、自己の信條を枉げずに瘠せ我慢を張り通したのです。かくの如き状態ですからサナトリウム經費の不足はトルドー自身が百方奔走して同情者の寄附金を集め、それを以て辛くも補填するといふ遣り繰り方針を採る外はなかつたので、この間常収入とも見做し得るものは、僅かにポールスミス旅館とサラナック旅館の二ヶ所、毎年の夏サナトリウムの爲めに恒例的に開かれる慈善

市の賣上寄附金だけだつたのです。

このやうな經濟上の苦境に立ちながら當初の慈悲的經營の方針を變更しなかつたトルドーに對しても、矢張り世間の蔭口と云ふものは絶無ではなかつたのです。「トルドーといふ醫者は一體どんな人物なのであらうか、多くの人が云つて居るやうな慈善家なのか、それ共アディロンダックを種に一儲けしやうとする抜目のないお醫者様なのか」と噂する者があつたので、友人の一人が世間話の序にトルドーにこの話をしました、その時、彼は形容出來ぬ程の不快の顔色をして次の通りに答へました。

「私はなぜ世間の人がこのサナトリアムの仕事の精神を理解して呉れぬのか、不思議で堪らぬ。實費十二弗から十二弗半のものを七弗で患者に提供して、一年間に經常費だけで二萬七千弗も缺損を生ずる商賣が、金儲けの種となるかならぬか判り相なものではないか。それなのに世間で私の仕事を金儲けのやうに

誤解するのは、多分私が立派な馬車で仰々しく乗り廻すからでもあらう。」

トルドーはこの風評が非常に心掛りだつたと見えて一ヶ月後にその友人の許にサナトリアムの計算報告書と次の手紙を送つて來ました。

「アディロンダックを種に金儲けをする抜目の無い醫者だと私を批評した人に、どうかこの計算報告を見せて次の傳言をして下さい。計算書面の不足額はトルドー自身で無心を云つて金を集めたのであるが、それはトルドー自身の爲めにしたのではない、彼れは一錢も自分の懐中に入れず、一文の報酬をもサナトリウムから受けては居らぬと傳へて下さい。」

さきに、トルドーが戲談に云つた「立派な馬車」といふのは、普通に田舎の醫師の乗る馭者なしの頭立ての馬車で誠に見すばらしいものであつたのです。後年に或る人が上等の馬車と駿馬とを贈つた時に、トルドーはこれこそ本當の立派の馬車を見て「私は逆もかう云ふものには乗れません、私がこれに乗つたら

トルドーのサナトリウムには最早金を寄附する必要が無いなど、云はれます」と答へた相です。

かゝる苦心をして迄も、トルドーは慈善的經營の方針の下に入院料の低廉を計つたのですが、それでも患者の内には退院迄の入院料を支辨出来ずに、途中で行き詰つて了ふ者が尠くありません。この悲惨事を救ふ爲に千八百八十八年にトルドーはフリー・ベッド・ファンド、直譯すれば自由病床基金、即ち施療基金制度を開いて、かゝる不幸な患者の療養を繼續させやうと思ひ立ち、その年に六百四十弗の寄附金を集め、この基金の責任保管者にはチャールズ・リーといふ友人を依頼しました處が、リー一家の者も亦この仕事に多大の興味を懷いて毎年の寄附を續けたのであります。このやうに、トルドーが一度施療基金の募集を發起すれば、直ちにリーといふ應援者が現はれて、殆ど自分の仕事のやうにして、

フリー・
ファンド

エンドウ
ファンド

その基金の増殖を心掛けて呉れる。そしてトルドーは施療基金の方には最早心配をせずに更に次の問題の解決に移る。かういふ具合に着々とサナトリウムの經濟上の基礎が固められては來たのですが、毎年の經費の缺陷をその年の寄附金で補つて行くやうな有様では、サナトリウムの基礎は堅實なものであるとは云へません。トルドーの後援者の一人であるリッドル氏が、この點を考慮して、彼れにサナトリウムの永久財源であるべき基本金を募集することを忠告したので、トルドーは同氏の提議を容れ、早速二千弗ばかりの寄附金を募つて基本財團制度を創設したのです。現在のトルドー・サナトリウムには各寄附者の氏名を冠した基本金が或は研究獎勵の爲に、或はカッテージ維持の爲に多數に存在して居ますが、財政の根幹を成すものは基本財團、常備基金、施療基金の三基金であります。基本財團制度を創設すると、トルドーは早速この財産の利殖保管を一任すべき人を求めて、終にペーカーといふ銀行家に依頼しました處が、ペーカー氏は業

1110
務多忙の故を以て彼れの頼みを拒んだのです。この時にトルドーは、「基本金が五萬弗に達すれば満足なのですから、どうか其曉まで面倒を見て戴き度い」と申込んで、初めて同氏の承諾を得たのであります。これは千八百九十年頃の話なのですが、其當時は五萬弗の基本金が準備出来ればそれで十分だとトルドーが言へたのです。その後死に到る迄トルドーは機會ある毎に友人に又患者に自分の事業の性質を説明しては寄附を勧誘し、各基金の増殖を計ると同時に、依頼せられたる保管者は誠實に巧妙に資金の運用を計つたが爲めに、トルドーが歿した一九一五年には基本財團は實に六十萬弗即ち百廿萬圓を超過するに至り、彼れが最初の希望とした五萬弗を十數倍するの巨額に達したのであります。猶、千九百二十二年(大正十一年)の年報を見まするに、トルドー・サナトリアムの擁して居る基本金は各種總計百八十二萬圓に達して居、その歳の寄附金の總額は二十六萬圓を計上して居ます。何と驚くべき盛況ではありませぬか。

十、サナトリアムの其後の發展

トルドー・サナトリアムの經營も設備の擴張も、すべてが同情者の寄附によつてなされたものであることは、前段屢々述べた所でありますが、その事實を今些し詳細に個々の場合に就て述べて見度いと思ひます。これから以下に記すやうな發展擴張の徑路をとつた病院は、恐らく日本には無いだらうと思ひますので、我國の病院と云へば、その規模も設備も設立の當初から或る一定の方針の下に計畫されるのを常としますが、これを、四百弗の「赤い小舎」の種子から生長して逐年規模を増し設備を加へ、終に凌霄摩天の今日の偉觀を呈するに至つたトルドー・サナトリアムと對照しますと、その建設の精神に於て、發展の徑路に於て、多大の相違のある事を認めざるを得ません。トルドー・サナトリアムが日本否

第十四圖



ワイラー夫人記念のカッテージ



ナザン夫人寄附のカッテージ



ミア氏記念のカッテージ

カッテージの増設

醫務員の住宅

世界に殆ど類例の無い所の特異の療養院であることを我々が知らうとするには、是非共その發達の徑路を明らかにする必要があるので、次に千九百四年から千九百十四年に亙る發展の歴史を自敘傳に就て極く簡單に物語り度いと思ひます。

千九百四年以降十年間に於てサナトリウムは設備を加へ、基金を増殖し、新計畫を樹てる上に於て堅實な發展を續けて行きました。サナトリウム獨得のカッテージは改新された設計案に基いて、三棟の煉瓦造りの永久的建築が寄附されました。その一棟はナザン夫人によつて寄附され、一棟はワイラー夫人を記念する爲めに遺子によつて寄附され、他の一棟はミア氏を記念する爲めに彼れの兩親によつて建設寄附されたのであります、そして老ミア夫妻は記念カッテージを寄附した上にその維持基金として二萬五千弗をサナトリウムに寄附しました。

その頃トルドーの心を悩ましたのは、醫務員の住宅問題でありました、當時サラナック・レークに療養に来て居る患者の内に優秀少壯なX光線技師も細菌學

者も居たのですが、これ等の人々を自分の手許に引留めてサナトリアムの爲めに働いて貰はうとするには、先づ相當な住宅を興へ新家庭を作り得るだけの準備をして置かねばなりません、よしどうと加して金をつくらなければ成らないと、トルドーは決心して勧誘に努めた結果、プリス夫人に一萬弗の醸出をして貰ふことが出来、この資金でX光線技師や細菌科醫員の住宅を造つて、彼等の永住を計り得たのであります。この外に圖書館の建物がメロン夫人によつて夫君追善の爲めに寄附せられ、小郵便局が建設され、又プリス夫人の好意によつて本院の食堂が擴張されました。

茲に書き洩すことの出来ない一挿話があります、それはトルドーが入院患者の病状を精密に測定する爲に特殊な設備を建造し度いと志した時のことで、トルドーの考へとしては、入院を許可された患者は一應の病状検査を経たのであるから、良性初期の適應症患者には相違ないが、入院前の診断丈けを以て爾後

の治療方針を確定しやうとするのは聊か早計である、故にサナトリアムの治療成績を一層顯著ならしめやうとするには、新來患者を尠くとも一週間は或る建物に收容し、其處には完全なる診断設備を整へて各患者の病状を仔細に研究し、將來の治療方針を定めた後に、夫れくカッテージに割り振ることにしなければならぬ。トルードーは斯く考へて假りに設計をして見た所が如何に見積つても二萬五千弗の資金を必要とするのでした、それは千九百五年頃のサナトリウムとしては由々敷き大企業と云はなければ成らなかつたのですが、トルードーは終に診査館建設の希望を果すことが出来ました。如何にして彼れは資金調達に成功しましたか、その顛末が實に書き洩すことの出来ない一挿話なのであります。

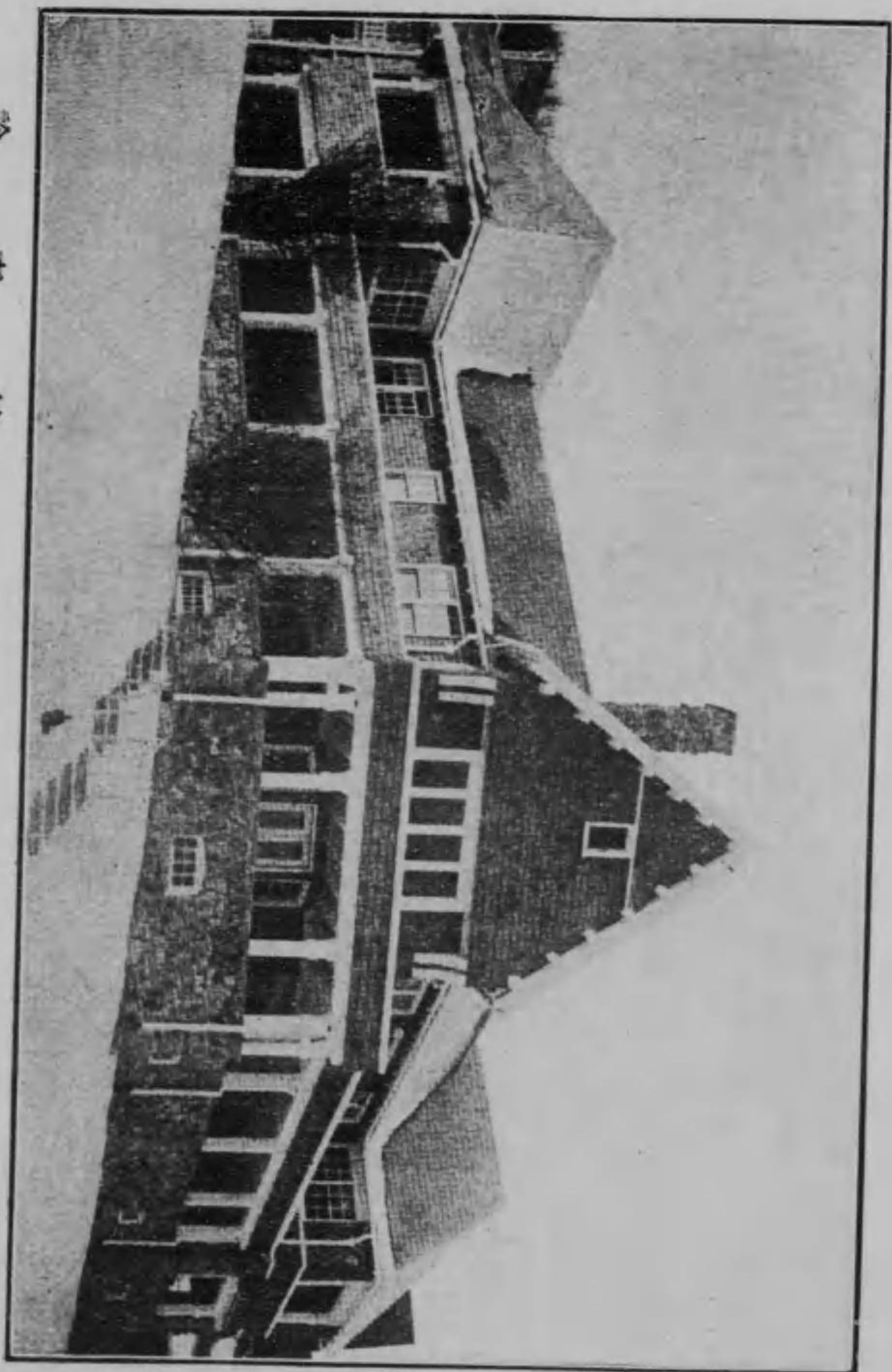
當時トルードーの患者の一人にスタインと云ふ牧師がありまして、いとも親密に交際をして居ましたので、トルードーは何に限らずサナトリアムの事情を牧師に打明けて居ましたから自然、診査館の計畫も二人の話題に上つて居たのです。

然るにこの時患者の一人である紐育市の富豪の夫人が病死しましたので、その遺言としてサナトリウムに何か寄附した旨を主人の富豪から申出でがありました。夫人の病歿に痛く同情したトルードーは一面に於てこの申出でを心から感謝して、早速に診査館新設資金の寄附を依頼し富豪の快諾を得たのであります。トルードーは天にも昇る心地して直ちに設計に着手しました所が、好事魔多しの譬に洩れず、この富める慈善家は二週間後に盲腸炎に罹り手術後僅か二日て敢なくも夫人の跡を追うたのであります。こゝに於て、一旦の口約にしか過ぎない二萬五千弗の寄附問題は夢の如く消えて、トルードーは再び資金調達に心を悩まされなければ成らなくなつたのです。

彼れはこの失望を包み隠さずにスタイン牧師に打ち明けて、聊かでも自ら慰める所がありました。數週間後の或る日、トルードーが牧師を診察に出掛けられた時、スタイン牧師の云ふことには、「先生、聖書に、金銀はわれになし、されど、

金銀はわれになし
されどわれは
有るに汝も
が有るに汝も
に奥の奥を
ふむるに汝も

わが有てるものを汝に與ふ、といふ文句がある。私自身金銭的の御援助は出来な
いが、わが有てるものを貴君に献上し度いと思ふ。それと云ふのは私の教區の信
者の一人である夫人が、曾て私に向つて、あなたが善いと思はれる事で金の要る
場合があつたなら、どうか私に寄附させて戴き度いと云つたことがある。私はこ
れからその夫人に手紙を認めて、あなたの希望する建築の費用を頼んで見やうと
思つて居ます。」トルドーは牧師の厚意を感謝しましたが、その斡旋が成功する
や否や甚だ疑ひなきを得ません。然るに數日後にスタイン牧師から電話が掛つて
来て「貳萬五千弗の小切手を受取つたから、いつでも取りに来て戴き度い」と云
ふ挨拶があつたのです、その時のトルドーの喜びは如何でしたらうか。この間
接の援助の下にトルドーは遂に宏壯なる診査館の建設を實現することが出来ま
したが、寄附者の氏名は今以て匿名のまゝで、唯寄附の動機はその夫人が逝きし
愛兒を記念するに在ると云ふ事が知られて居るだけです。序にこの建物（第十



診 査 館

五圖参照。診査館とは假りの譯語で、原名は Medical and Reception Pavilion と云ふのです。の構造を説明しますれば、一階は新來患者の病室に宛てられて居て、前にも申述べた如く、入院患者は先づ此處で一週日の間仔細に檢診研究された後に、初めてカテゴリーに送らるゝのです。二階は事務所、咽喉検査室、諸試験室、圖書室、實驗室等に割り宛てられて居ます。そして前方の地下室、と云つても建物は傾斜面に建てられて居ますから實際は地下室ではないのですが、其處には最も精緻を極めたるX光線設備が敷室に分れて配置されてあるのです。この建物が竣工した事によつてサナトリアムの醫療業績の昂められた事は云ふ迄もありません。

千九百九年に於ては廐舎、薪小屋、石炭置場が全然新様式のものに改築されました、その敷地はマツキボン氏の五千弗の寄附によつて買入れたものです。同じ年にグードウィン夫人の厚意によつて製作所の建物が寄附されました。こ

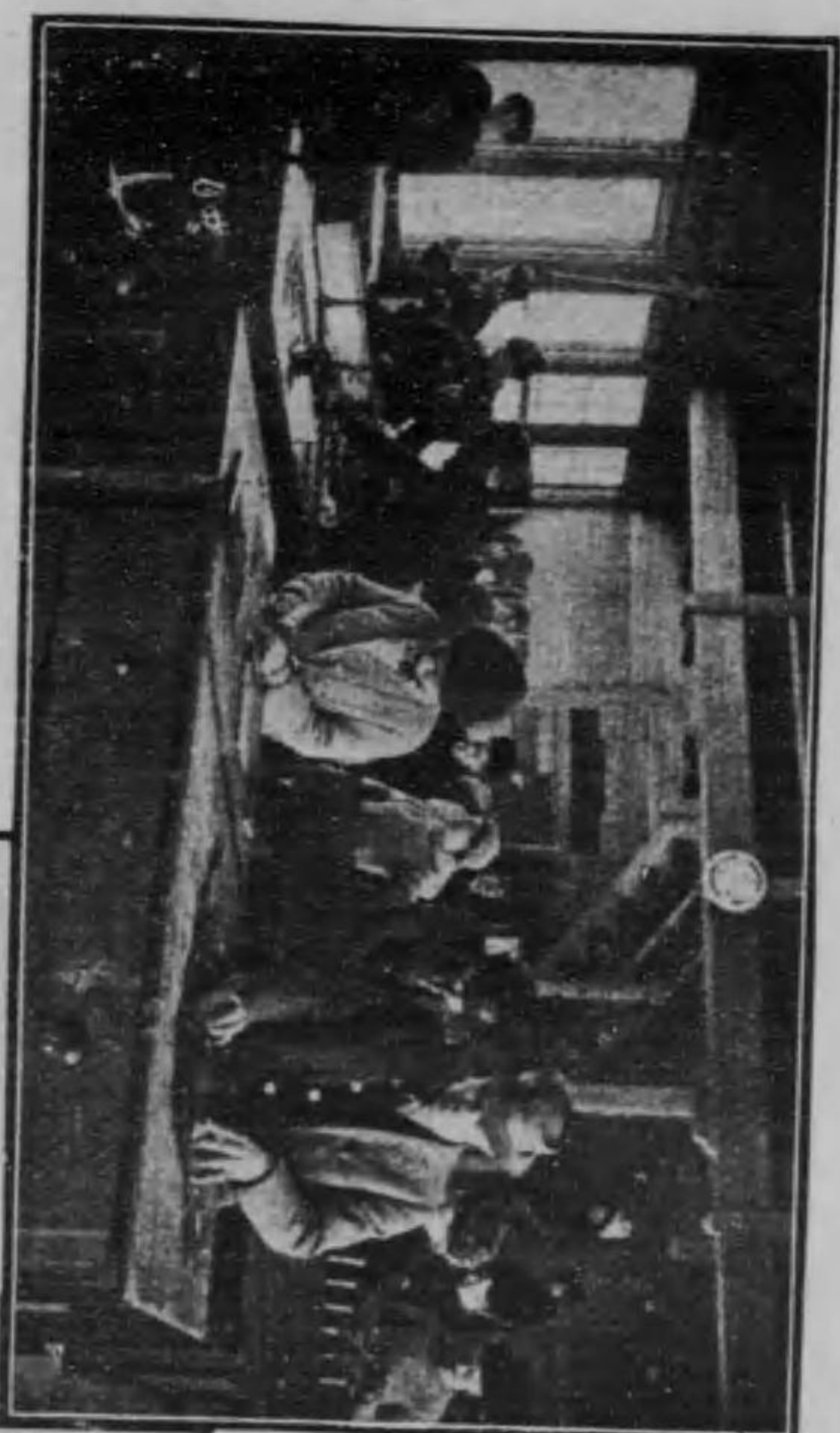
製作所

の製作所の目的は種々ありますが、第一には、貧しき患者に對して病後の生活を準備させる、第二には、最も實際的方法に於て恢復期の患者の體力を鍛鍊させる事が主要なものであります。製作所には製本、金物細工、革細工、籠編み、寫眞、額縁その他の裝飾品製造用の道具が完備して居るばかりでなく、夫れ々教師が居て患者を指導し輔佐するのであります。此の設備は患者に職業を教へ込むといふ實際的の效能ばかりでなく、患者を療養生活の單調倦怠から救ふといふ點に於て、非常に貢獻する處があるので、患者の爲めにも、亦サナトリウム支配の上からも、グールドウィン夫人の厚意は絶大の感謝に値する處なのです。而して同夫人の厚意は設備の寄附だけに留らないので、毎年の維持費の不足額をも負擔して決してサナトリウムの經濟を累する事はなかつたのです。

次に計畫された問題は、全快患者の若い婦人の中から篤志の者を選出して、それを結核病看護婦として特に養成する機關を設け度いといふ事でした。一度結

二三八

看護婦養成所



製作所



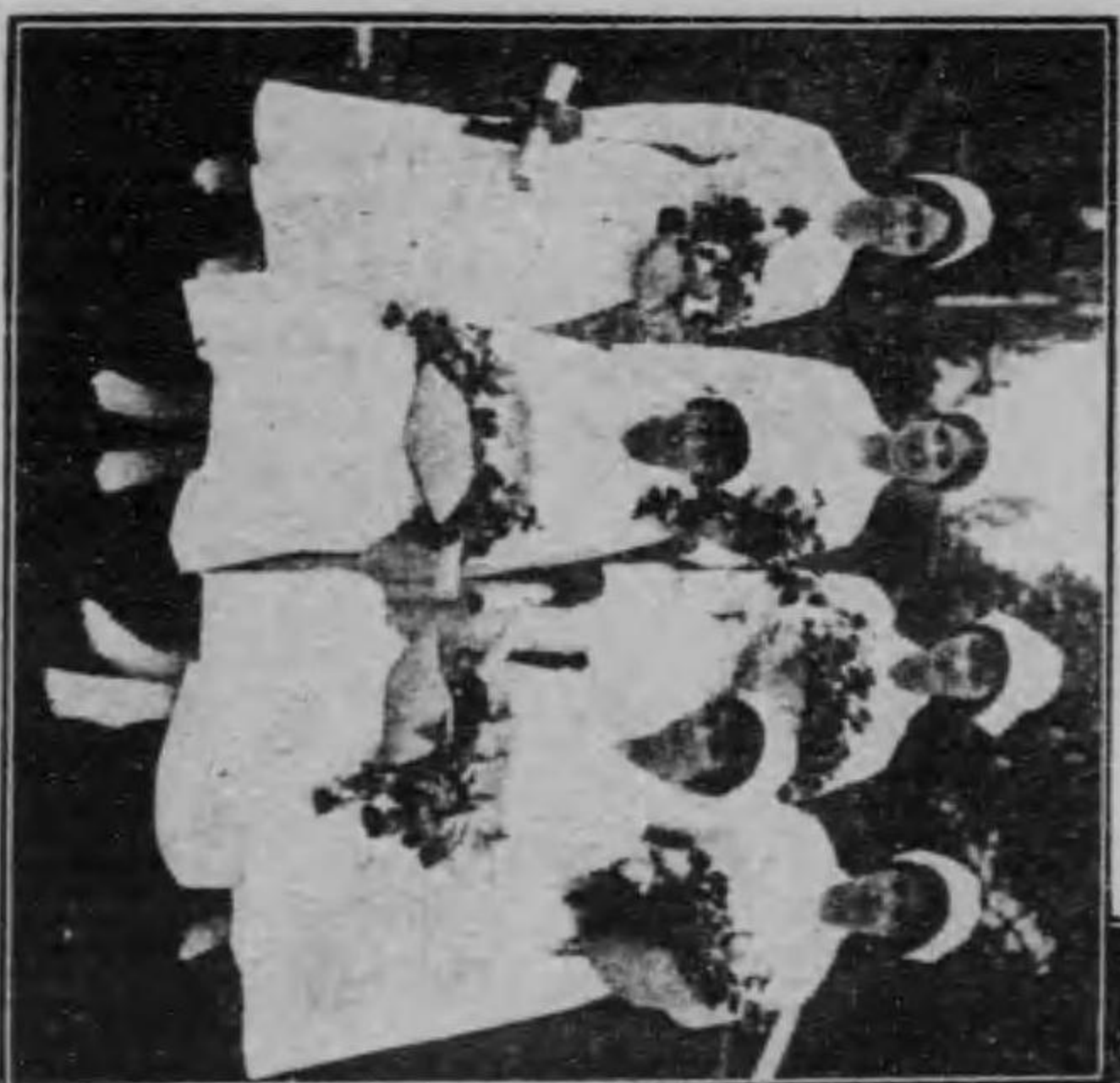
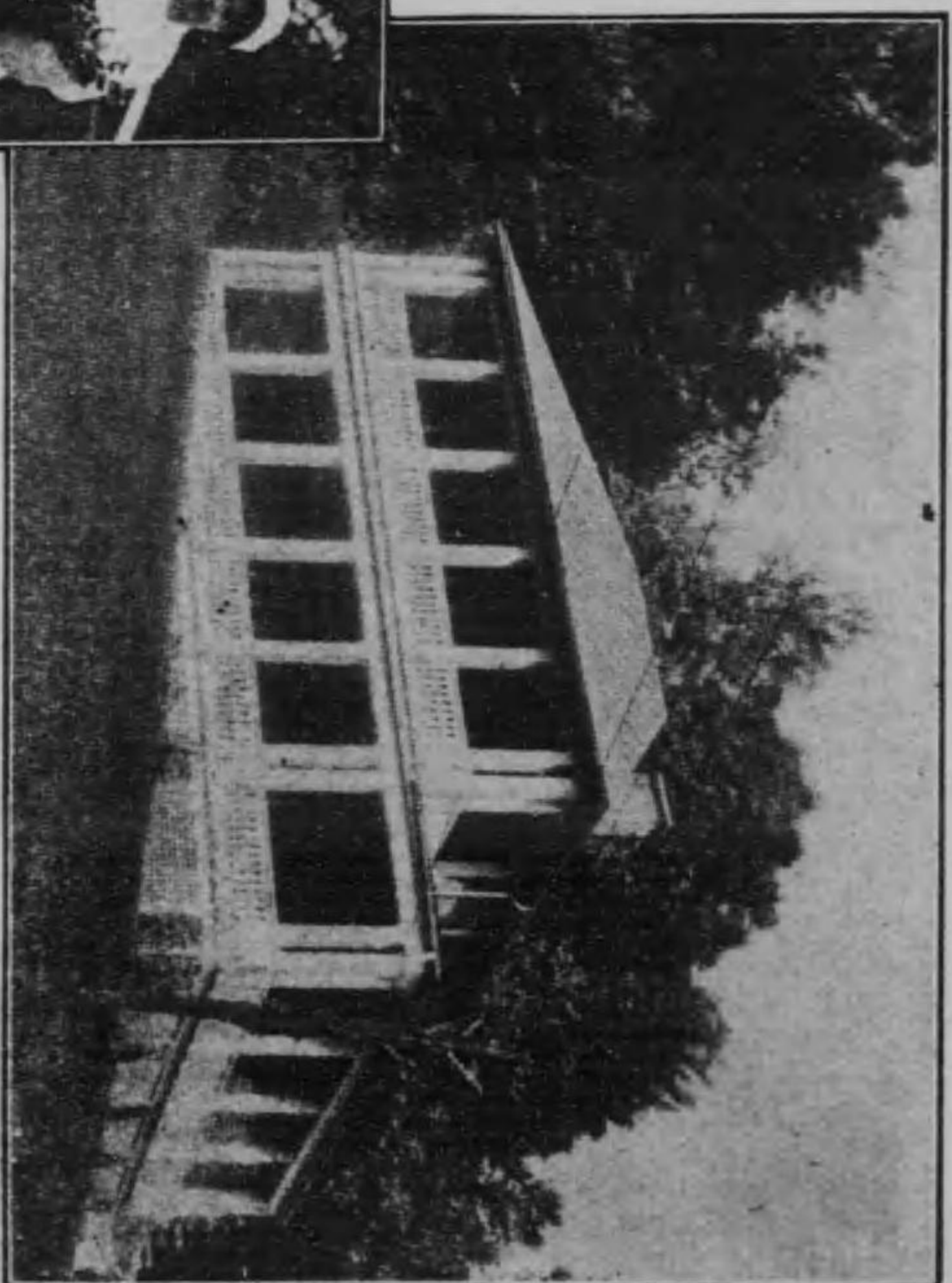
たしき日

核の病苦を味つた人々が正しい治療法の要領を體得して、加ふるに眞面目な結核撲滅の社會的觀念を心に植ゑ附けられた場合には、その人々は一人一人が立派な結核征服の戦士であり結核撲滅思想の宣傳者であるのです。そして、これ等の戦士宣傳者がサラナック・レークを中心として國內各地の療養所に分派されて其處で獻身的の働きを惜まないとしたならば、トルドー・サナトリウムは一婦人を治療しこれを看護婦に養成する事によつて間接的に十人百人の患者を治療する結果を期待し得るのであります。トルドーが此處に着眼して恢復患者中の若い婦人を結核看護婦に信念的に養成しやうと企圖した事は實に敬服に堪へません。この計畫を實現させて呉れた人はレイド夫人であります、夫人は千九百十二年亡父オグデン・ミルス氏を記念する爲めに看護婦養成所の建物を建設寄贈しました、この建物をオグデン・ミルス看護婦養成學校と名附けて、毎年卒業生を出して居ます。(第十七圖参照) サナトリウム創立の第一年にはトルドーは就床患者

110

の看護の爲めに無智な老婆や案内者をも雇はなければ成らなかつたのが、今や完全なる設備の下に特に結核病者看護を目的とする看護婦を養成輩出せしめることとなつたのですから、その学校の初めての卒業式に臨んで證書を授與した時にはトルドーは實に隔世の感に堪へなかつたてありませう。斯くの如くしてサナトリウムは多数の婦人患者の健康を恢復させ得たのみならず、それ等の婦人を看護婦に養成することによつて、個人的には患者に將來の生活を保障する有益なる職業を授け社会的には有力なる結核運動者を輩出せしめたのであります。サナトリウムの仕事は唯單に患者治療の一點に留らずして關聯的に結核征服のあらゆる運動の策源地となるべきものであるといふ事は、鋭上のオグデン・ミルス看護婦學校の一施設のみからても教へられるのであります。

看護婦養成學校を寄附したレイド夫人は翌年更に又斬新なX光線設備一式をサナトリウムに寄附しました。又ペンフォールド氏によつて、サナトリウムに出入す



オグデンミルス看護婦養成所

る三方の口に宏壯な門が建てられました。

以上略述しただけでも、トルドー・サナトリウムが如何に多数の人々の同情の結晶體であるかを知る事が出来るでせう。これに就て彼れは次のやうな感慨を洩して居ます。

最初の十二年

『サナトリウムの當面の問題は歳の経過すると共に一變した。最初の十二年間といふものは、私の努力は主として患者の實際の治療成績によつてサナトリウムが如何に有要なる機關であるかを立證する事に傾注されたのである。症状と云ひ経過と云ひ實に千變萬化を極むる結核病の場合に於て、懷疑的な一般の人及びそれよりも更に一層懷疑的な批判的な専門醫家を納得さすだけの十分な證左を整へる事は、短日月に成し遂げられぬ處であつた。この機關本來の價値機能を実際の治療成績によつて證明する迄の期間を如何にしてわがサナトリア

二四二
ムを維持すべきや、如何にして必要の資金を調達すべきや、これが最初の十二年間の私の苦心の種であり、私の双肩に係つた難問題であつたのである。その間、若しも知己友人の寛仁厚情を極めた後援と、醫療經營の兩方面に於ける僚友や同志やさては雇人の奉仕的な協力が無かつたならば、かゝる氣候の險惡な僻遠な土地に於て不足勝な財源を以てどうして創立時の困難を切り抜けて行く事が出来たであらうぞ。經營の方面に於てサナトリウムに力を盡して呉れた人々は、上は評議員、検査醫（入院志望患者の病状を査定する各地の醫師）サナトリウム内勤醫、主事より下は看護婦、雇人に至る迄、報酬といふものは常に不十分であるか、又は全然無報酬であつたのだ。わがサナトリウムが生れ出づる惱みに打勝つたのも、この愛の奉仕の力であり、又、サナトリウムを今日の如き萬代不易の基礎の上に築きあげたのもこの力の爲だと云はねば成らぬ。」「偉大なるものは眞理である眞理は顯れざるなしと云ふが、顯れ方はなかく

て手間取ることがある。サナトリウム創立の最初の六年間といふものは全くその存在を認められなかつた。千八百九十一年にドクトル・パウデツチ氏がボストン市の附近のシャロンといふ處にサナトリウムを設けて、同地方の氣候條件が悪いのにも拘らず、良好の成績を擧げて外氣療法を發揚して呉れた。越えて千八百九十五年に、マッサチュセツ州の委員がサラナック・レークに視察に來て、サナトリウム療法の成績を稱賛せる報告を發表し、その結果マッサチュセツ州議會は初期結核患者治療の爲めのサナトリウムを設立する事を決議し、千八百九十八年に竣工させた、これが米國に於ける最初の州立サナトリウムである。この時分から漸くサナトリウム療法の眞價が世に承認せらるゝ事となり、サナトリウムも漸次増設されて、千九百九年迄には私設州立を併せてサナトリウムの數は三百五十二を算するに至り、その内の百〇二院は實に千九百九年中に建設されたものであつた。』

「今や肺病治療上サナトリウム療法は最善なるものとして一般に確認されるに至つた。今後の我々の努力は治療法の宣傳でなく治療法及療養設備の改善に傾倒されなければならぬ、サナトリウムとしても最早大きな上の發展を望まずに、飽く迄も内容の充實に留意し、愈々治療法の研究に努力して、その普及を計らなければならぬ。」

「科學と慈善とは過去に於けるが如く將來に於てもサナトリウム事業の標語であり、この二つの軌條の上にサナトリウムは堅實なる發達の歩みを續けなければ成らない。サナトリウムが那邊迄其機能を發揮し得るか、それが到達し得る完整有効の程度は、經營者の信念と、その知己並に一般公衆の經濟的援助によつて決定せらるゝのである。」

十一、忍従の生涯

抄譯の筆は茲に自敘傳卷末の一章に達しました。自敘傳卷尾の一章はサナトリウム創立廿五年記念祭の記事を以て初まり、メルシエ作「敗者の榮光」の鑄像に寄せた感懷を以て擱筆されて居るのです、今その概要を譯出してトルドーの魂を描き出す色彩を幾分ても濃くし度いと思ひます。

廿五周年記念祭は千九百十年二月十五日にサナトリウム内の娛樂館で開かれ、當時トルドーの健康は勝れず殆ど病床を離るゝことが出来なかつたので、記念祭も數回延期の上、漸く當日となつたのであります。この日の記事はトルドー自身が書くとするに到底筆が廻り切らぬ程豊富であるので、已むなくアデー

二四六
ロンドン・エンタープライズ紙の記事を抜萃して辛抱して置くと云つて、彼れは新聞記事の概要を自傳に轉載して居ます。

その記事によると、當日の參會者は友人、醫師、舊患者及在院者を合せ三、四百名で、主たる催しとしては、往年の若き狩獵者の夢が今日のサナトリウムに晶化するに至る迄の徑路を實際に事に關與した獵師、勞働者、醫師、同情者、患者等の實在人物が登場して活人畫及無言劇で演出したのであります。

活人畫の第一場は、「狩獵者の夢」と題するので、現在サナトリウムが建設されて居る場所が昔狐獵の見張場であつた、その當時の光景を舞臺に現して、其處に若きトルドー（トレンフレイといふ人が扮したのです）が銃獵の服装をして轉寢をして居る、傍には獵師のフィツその人が卅年前の扮装をして立つて居る、總てが千八百八十年の昔ヒスガール山の狐獵の時折りにトルドーがサナトリウム建設を夢想した時代を活人畫としたので、背景の幕には幻燈でサナトリウムの發展

の有様が順次に映寫される、それを若きトルドーが夢みて居るといふ趣向なのです。

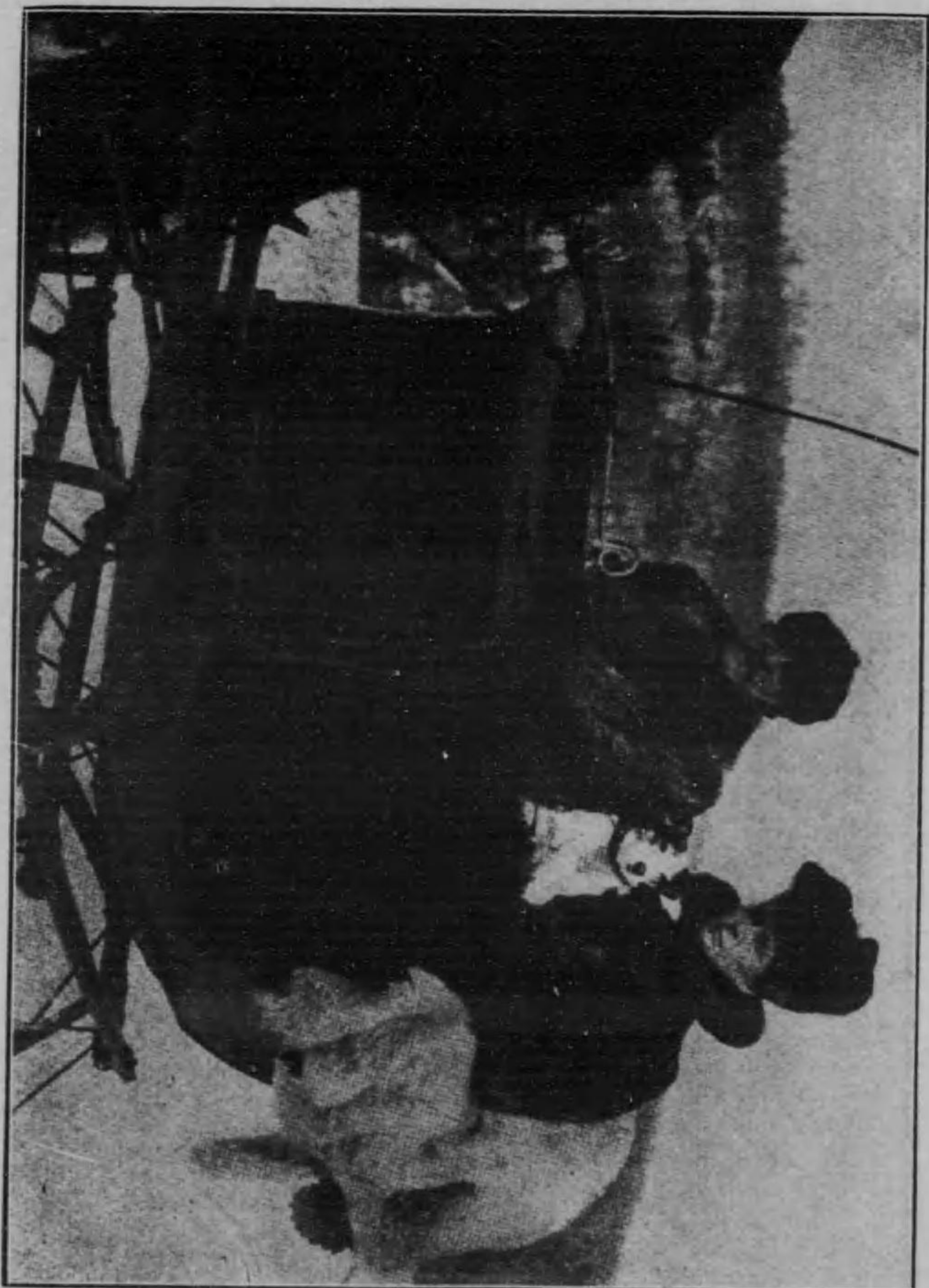
第二場は「着手」と題するので、サナトリウムの會計監督であり創立以來の知己であるリッドル氏や、創立の當時の工事監督ケーリー氏や、其他多數の人物が登場してサナトリウムの工事を急いで居る光景です。第三場はトルドーの最初の診察室に患者が殺到する有様を現したのです。この外數場の活人畫が演ぜられた後で、トルドーは右に百年の知己リッドル氏を、左に獵師フィツを伴つて破るゝが如き拍手の内を静かに演壇に上つたのです。この三人こそサラナック・レークに於ける結核撲滅運動の眞の率先者なのであります。トルドーの挨拶は非常な感奮の語調を以て始められました。

「紳士淑女諸君、私は斯る場合に臨んで適切に自分の感懐を云ひ表す言葉を辨へません。廿五年以前私が夢みた幻想は事實となつて現れましたので、今日私

共はこの夢の正夢であつた事を記念し祝賀せんとして居るので御座います。」

「私が今より卅五年以前にこのアディロンダックに参りました時には、病弱の私がこの世の中に於て何事かを成就し得やうなどは思ひも寄らん事でありました、當時の私は社會とは隔絶した遠い國に流竄されたも同様の身の上だったので、そして私の受けた醫學の教育と云ふものは今日から見れば實に云ふに足らぬものであつたので、いはゞ一通りの學才を備へて居つたと云ふに過ぎません。然らば如何にして私が此等の困難に打勝つて今日茲に見るが如きものを成就し得たのかに就て御不審があらうと存じます。」

「先づ第一に擧ぐべき味方、それは何ものよりも私の助けとなつた味方は、私の妻であります。妻は失望と悪闘の長き歲月を絶えず私を鼓舞し激勵して呉れたのであります。次に擧ぐべきものは、熱誠であり不撓不屈であると云ふ事に就て私は胸中不滅の確念を有して居つたといふ事です。次に私は信仰を有し



晩年のトルドー夫妻

て居りました、その信仰とは、目標をのみ認めて途中の障碍を一切眼中に置か
しめざる信仰であり、私自身に對する信仰であり、苟も善事であるならば聊か
なりとも貢獻する所あらんとする私の力能に對する信仰であり、又、私の友人
に對する信仰であり、現世及來世を問はず將來に對する信仰でありました、そ
して友人に對する私の信仰の反響は即ち私の事業に對する彼等の引續きての喜
捨となつて現れ來たつたのであります。』

「今や世の旅の終末に近づきつゝある私として、今日此處に皆様と一堂に會し
てピスガ一の丘の夢想の實現せるを祝し、創立の當時に於て若輩の一醫師の熱
誠を幸ひに信頼して下されたる舊友諸氏と會して私が各位の信頼に背かざりし
事を事實を以てお示しする事が出来、そして、多年このサナトリアムの事業に
翼賛し、難境に處して私を援助し、獻身的努力を以てこの大事業を今日あるに
至らしめたる諸君、醫師、看護婦、事務員各位と只今此處に於て相見ゆる事が

叶ひました上は最早これ以上に何物をか冀ひませうや。加之、この席上にサナトリウムに於て死から脱れ命を延ばし得た方々の集られたるのを見、且つ又、この延命長壽の方法が多年の我々の努力の結果として遍く國內に普及され、從來絶望を啣ちたる人々に希望と新生命とを齎し得た事を知つて、私としてはこれ以上の満足は無いので御座います。」

「私はこの盛大なる記念祝賀の式を私の爲めにお催し下さつた方々の御好意に對し、且つ、各位が私に與へられたる光榮に對し深甚なる感謝の意を表します。しかしながら、今日のこの光榮、ならびに私の僚友が私の身に適ふものと見做して居ります所のあらゆる光榮を、私は此の席に於て私よりも更に一層これを受くるに値する者の前に獻じやうとするのであります、なんとすれば、其者の在らざりせば私は何事をも成し遂げ得なかつたからで御座います。その者は餘人ならず私の糟糠の妻であります。」

これが記念祭に於けるトルードの答辭の概要であります、トルードは自分の受くべき光榮榮譽は、自分よりも妻がより一層これを受くるに値するものだと明言して居るのであります、これは決して西洋風の女性尊崇の好辭令ではなく、彼れが過去四十年の病生活を追想し、苦心慘憺たりしサナトリウム創立當初を回顧して、衷心より「噫、傍に妻の無かりせば……」の感懷を想ひ浮べたからの眞情の發露だと考へられます。トルードの家庭は成立の翌年よりして早くも病患の暗い帳に和樂の歡語を蔽はれて了つたので、結婚早々の新夫人は華やかな社交の空氣に浸る暇もなく南に北に主人の轉地療養のお供をして、終には人煙稀れるアディロンダックの遠境に吹雪を衝いて轉住するといふ危険をも甘諾するに到りました。そして、トルードが病悶の闇に閉された時に慰安の光明を與へ、失望の淵に沈んだ時に百折不撓の激勵を怠らずに、終に夫君をしてあの大事業を完成せしめたのは、實にトルードならずとも、夫人に對する讚美激獎の言葉を

惜み得ない所でありませう。若しも、トルドーの發病の當時に彼れの周圍に低級淺薄なる夫婦別居論者が在つて、夫妻同棲を妨げ、トルドーの傍からこの無二の味方を斥けたとしたならば、今日のトルドー・サナトリウムは果して存在し得たか否か疑ひなきを得ないのであります。世の中には結核患者の夫婦同棲を卑猥淫難なる性慾問題の見地からのみ觀て攻撃する者も尠くないのであります。若しも斯る攻撃に値するが如き靡爛せる同棲生活を送つて居る病者があるとするならば、當にトルドーの病家庭に就て三思すべきものと存じます。夫婦は終世の伴侶、相慰め相勵ますべきであるに拘らず、疾患に襲はれたといふ難境に際して殊更に別居しなければ成らぬ程放恣淫蕩であるとしたならば、かゝる病者は三冬これが衣を剝いてサラナック・レークの飛雪に暴し淫放の情を根絶さすべきであります。

トルドーの感謝の挨拶が終ると、一同はサナトリウムの廣間に席を移して、

トルドー夫妻の爲に祝宴を張り、この席上で、ドクトル・ポールドキンによつて舊患者一千餘名の賀状を收めた美麗なる書冊がトルドーに捧呈されました。即ち、當日參集出来なかつた舊患者は各自の濃やかなる感謝の情をこの一卷の中に收めて、遙かにトルドーの爲めに「天恵あれ」と叫んだのであります。

以上が廿五周年記念式の記事の概要です。自敘傳の筆は次ぎにサラナック・レーク村に關する敘述に移るのであります。同村に關する事柄は便宜上次の章に採録する事として、こゝでは其部分だけを除いて譯出を續けます。

「私の過去を振り返つて見ると、千八百六十五年に兄が發病後ニューポートの私を尋ねて來た時以來、結核といふ病氣は殘忍な執拗な仇敵の如くに片時も離れず私に付き纏うて居るのである。この病魔は愛する兄と娘とを奪つて、私の

千萬金に
も換へ難
き體験

生涯に最初の二つの悲哀を齎したのみならず、若い逞しかつた時代の私の健康を打ち拉いて私を僻遠の地に追ひ遣つた、其處で私は幾度か結核の魔手が周囲の人々を脅かすのを見、幾度かその犠牲者の臨終の床に侍した事であつたらう。そして近年に於て私を遣る瀬無き苦惱窮愁の癡疾の境涯に陥れたのも、この結核の仕業であつたのである。」

「しかし、私が結核に悩まれ結核と闘つた事は、左なくんば到底私の知る能はざりし尊い體験を私に與へ、慕かしい想ひ出を私に残して呉れた、その體験その追憶は私にとつては千萬金にも換へ難い程のものである。そして私が結核に悩める人々を救はんと努力した間にこの世で望み得べき最善の友人を一人ならず得た事も亦結核の賜と云はねば成らぬ。」

譯して此の一段に達して私のトルドーに對する敬慕の情は更に一層の高潮白熱を加へるのであります。自敘傳を執筆したのは彼れの逝去の前年（千九百十四

年）で、脱稿後は一時は殆ど言葉を發し得ぬ程度の重症に陥つたのです、かゝる病苦の床に臥しながら、彼れは「結核との闘ひが與へて呉れた體験追憶は千萬金にも換へ難し」と欣然として運命讚美の聲を揚げて、歎傷的の繰言を口にしながらつた事は寔に敬服に値するではありませんか。若しもトルドーの健康が結核の爲に脅かされなかつたならば、彼れはアデイロンダック生活の慘苦を嘗めなかつた代りに、銃獵好きの紐育の一開業醫として、いとも平々凡々たる一生を送つたに相違ありません。然るに、一生を結核と力闘するやうに運命づけられたばかりに、父祖傳來の仁俠的の佛蘭西魂、純真廉潔な彼れの人格が自ら生動飛躍を已むなくされたといひ得るのであります、實に結核こそトルドーが空しく持ち腐れを爲すべかりし胸奥の秘寶を我々の前に吐き出さして呉れた所の大恩人であるといふはねば成りません。この因縁をトルドーは心身共に結核の爲めに打ち拉がれた瀕死の病床に苦悶しながらも猶且つ正當に見極めて、結核の悲運に對して

天に從つて
天に克つ

二五六
怨嗟の聲を放たずに、却つて千萬金にも勝る體驗と追憶を得た事を感謝したのは天晴れ勇者の態度であります。彼れの肉體は苛酷な運命の榨木の下に日夜の病苦に惱まされたのでありましたが、彼れの心靈は殘忍な天命を全く征服して、剩さへ千萬金にも換へ難い尊貴な分捕物を手に收める事さへ出来たのであります。彼れは病床に横つたる凱旋將軍であつたのです、「天に從つて天に克つ」とはこの事を云ふのであります。この「運命に忍従する」といふ事は、トルドーが自敘傳中に度々繰り返して居る所でありまして、「結核患者が運命を征服しやうとするには忍従の一途あるのみである、運命に反噬し逆撃する事を止めて現在の境遇に満足するといふ事は、それは會得するに甚だ困難な事ではあるが、病者にとつて上乘の教理たるを失はない。驚く事には最初不満であつた境涯も一度忍従の心境に入れば其處に無上の満足を楽しみ得るものである事が判る。自分が此の戒律を會得する迄には長年月を要したが、一度悟入した後は私の生活は充實怡悦の度

忍従と屈

を増す事が出来た」と述べて居る處もあります。しかし、トルドーの所謂「忍従」は「屈従」を意味するものではありません、苛酷な運命に脅かされて溢々ながら諦めの殘生を送るのは「屈従」であります。トルドーが高唱する「忍従」は決して消極的な諦観ではなく、運命征服の積極的な方便なのであります。自分の前に立ちただかる苛酷な運命と抗争せずに、「忍従」の握手を交換して、苛酷な運命を自分の背後に誘つて来る、さすれば其人は最早運命の苦澁な顔色と日夜對面する不愉快から脱れて、欣然として新運命の開拓に力を傾注する事が出来るかと思はれます。トルドーの箴規である「忍従」の言葉は、彼れの一生涯の功業の上から歸納して斯く積極的の意味に解釋すべきものであります。

かくの如き信念を以て病苦の運命に忍従し來つたトルドーは、當然の歸結として難治の病床に絶望的な闘ひを續けつゝある患者に絶大の同情を拂つたのであります。苦痛を忍んで執筆した彼れの自敘傳はその卷末に於て實に此等の病

者に對する讃仰の言葉を次の如く敘する事を忘れなかつたのであります。

「私が患者諸氏から教へられた處は實に甚大であつた、此等の人々との交際が私に齎した所の効果は私にとつて貴重極まりなきものであつた。而して聊かなりとも私の努力がこれ等の人々の健康を恢復し有爲の生活に復歸せしめるに役立つた事を知り、一度これ等の人々の感謝と親愛の念に想ひを及ぼせば、病苦と幽悶の募り來る場合でも私の心は満足を感じ平穩を覺ゆるのであつた、これこそは永劫に消えざる私の誇るべき財産でなければ成らぬ。」

「しかしながら、恢復した人々の感謝親愛の念にも勝して、私に一層深き尊き感銘を與へたのは、多年の病苦に惱まされつゝ、時には赤貧骨に徹するの身を以て、戦の最初から全然勝算の無き軍に従ひつゝある患者の人々であつた。これ等の人々から私が教へられた事は「運命に克たうとするにはこれに反抗しこれを回避せず、これに忍従するに在る」といふ事であり、斯くの如き人を通

メルシエの「敗者の榮光」

じて我々は神を知り得るといふ事であつた、そして又、勝ち軍の場合よりも敗軍に當つて勇敢に戦ふ者は、より尊重すべき勇者である、殊にそれが最初から明白に勝算絶無のものであるか、又は多年に亙る持久戦を必要とする場合に於て特に然りといふ事をも教へられた。」

「これ等の病者こそは、メルシエ(佛蘭西の彫刻家)が彼れの不朽の名作「敗者の榮光」に於て永遠に傳へんとした意味の勝利を體現するものである。「敗者の榮光」は佛蘭西が獨逸の爲めに蹂躪せられた後千八百七十一年にメルシエが製作の感興を得たのであつて、鑄像は、若き戦士が敵から死の一撃を受けて將に落ち入らんとし、手には猶折れたる劍を握り締めて居る、その勇敢なる犠牲者を勝利の女神が抱き取つて天に昇らんとする處を現したものである。」

「世俗が稱讚し推奨する所の勝利とは物質界の勢力の上の成功、偉業を意味するのであつて、世人は精神界に於ける勝利、敗者の勝利には一切無關心なので

第十九圖



メルシエの傑作「敗者の榮光」

あるが、精神界の勝利、敗者の勝利こそ却つて一段の勇氣を要するものであり、不滅不朽の點に於て決して物質上の功業に劣らぬものであり、我々に千古不磨の教訓を傳ふるものである事は、時の記録の示す所である。」

二六〇

「歴史よ告げよ！ 勝者とは誰ぞ？」

汝が記録の長きを舒べて語れ

時代に傲る寵兒を指して

世界は勝者と呼びなすなるかを？

殉教者かネロか？——テルモビレーの役に

闘ひ登れしスバルタンか？ そも亦

ペルシア人サークセス王か——彼の判官か

將ソクラテスカ？——ピラトなるか基督か？」

「敗者の榮光」は、サラナック・レークに於て私の患者が屢々獲たる勝利を現し、肉體を超越せる精神の勝利を語り、千載の後迄も偉大なる教義を垂るゝナザレ人の勝利を示すものである。メルシエの鑄像は、私の親しく知れる苦戦の象徴として、死の呻きも猶且つ勝利の樂音を亂す事の出来なかつた長期の惡闘を表現するものとして昔より私の愛好する所のものであつた。私は長い間複製の一體を手に入れやうとして其の望みを果し得なかつたが爲めに小さな寫眞を枠に入れて机の上に飾つて居た。然るに千九百十三年の冬の或る日、初對面の二人の婦人の訪問に接した、聞けば姉妹の他の一人がこの地に療養中であるのて見舞に來たといふ事であつたが、その婦人の一人が卓上の寫眞に眼をつけて、私に由來を尋ねたので、私はこの作品に對する自分の所感を述べて實は鑄像の複製が欲しいとは思つて居るが、手に這入らぬからこの寫眞で辛抱して居る旨を語つた。しかるに、二週間に紐育のゴルハム商會から「敗者の榮光」の

美事な鑄像が届いた、その添へ手紙には、私共三人の姉妹は先生にとつて非常に意義のある「敗者の榮光」の立像をお贈り出来る事を無上の喜びと存じますと書き附けられてあつた。」

「實にこの世は麗はしい驚きに満ちて居るものだ、思ひ掛けなく私の手に入り私を驚喜させた「敗者の榮光」の鑄像は私の長い旅路の終りを示す好箇の里標で無くて何んであらうか。」

十二、サナトリウムに於ける患者の生活と

サラナック・レーク療養村

前章を以てトルドー自敘傳の紹介を終りましたが、尙、補遺として茲にトルドー・サナトリウムに於ける患者の生活の概要と、サラナック・レーク療養村とに就て申述べて見度と思ひます。次ぎに掲ぐる一文は大正十二年中サラナック・レーク村に療養の爲めに滞在されて居つた井家重雄氏が私の乞ひを容れて態御通報下さつたものなので、茲に讀者諸賢と共に謹んで同氏の御好意を感謝し度いと存じます。

◎トルドー療養院患者取扱に關する大要

サナトリウムに於ける患者の生活ミサラナック・レーク療養村

一、トルドー・サナトリウムに於ては初期患者を取扱ふをその主旨とし入院
期間を六ヶ月とす

一、入院せんとする患者はサナトリウム付き醫師の診断又はサナトリウム委嘱
醫師（委嘱醫師は國內各地方に居れり）の診断を受け入院資格者なりや否や
を決定するものとす

一、新患者は先づ診査館に假收容せられ規定の診察を受け病症の如何に従ひ
それ／＼異なるカテゴリーに收容せらる

一、患者用カテゴリーは總數三十棟より成る（收容患者約百五十名）右の外入
院後稍病症の重りたる患者を收容する爲め二棟より成る病室あり拾六名を
收容す

（右病室の狹隘を感じ近々増築の計畫あり）

一、患者を普通患者と就床患者の二種に大別し普通患者は普通カテゴリーに

收容し就床患者は看護婦附カテゴリーに收容す

一、普通患者にして散歩を許可せられ居るものは三度の食事を大食堂にてとる
事

普通患者して未だ着服の上食堂に出る迄に至らざるもの及び就床患者は自
己の室内又は病床にて食事をとる事

一、患者は毎朝七時半に起床、八時に朝食、一時に晝食（晝食を主食とす）

午後二時より午後四時に至る間は安静を守り會話を禁止す大體就眠するをよ
しとす

晝寝の爲め夜間睡眠を妨害せられ心地を害する場合は晝寝は實行せず安静の
儘黙讀を許可す

但し就床患者は就眠するを原則とす

午後六時夕食をなす、午後十時消燈就眠す

但し就床患者消燈時は午後九時とす

一、醫師の巡回

重症患者病室へは毎朝夕患者を見舞ふ

看護婦附カッタージへは毎朝巡回す

一、看護婦の配置

看護婦はトルードー看護婦養成所生徒を以て之に宛つ

看護婦は合宿所に起居し毎朝看護婦取締より命ぜられたるカッタージに出勤す

看護婦附カッタージには看護婦常に住居して患者の看護に従事す

重症患者病室には看護婦毎朝出勤し午後四時交替し更に夜勤看護婦と交代す

右病室には看護婦取締及病室監督として一名の看護婦長住居す

一、患者の體温、脈搏

午前七時、午後四時、午後八時の三回検診す

普通患者は自身にて検温、脈診をなし備へ附け表に記入し醫師の検閲に供す

就床患者は看護婦すべてこれをなす

一、重症病室に於ける患者

病室は東南を明け放しポーチ縁に連續す

患者は就床の儘ポーチに出て得る設備になり居れり

午前六時半頃患者は就床の儘室内に運ばる

午前七時迄に看護婦來り検温及脈診をなす、その後患者の顔洗ひをなす

午前八時頃朝食をなす

午前九時頃醫師の巡回あり

同九時半頃よりポーチに就床の儘出て日光浴及外氣浴をなす

一週二回床 上浴あり看護婦は石鹼と湯にて患者の全身を洗ひ而してアルコ
ールを以て全身摩擦をなす
重症患者 快方に越さたる時はバック・レスト（背をもたれかけるもの）
をベッドに備へ付けて患者の身體を四十五度位の角度に起し起床の準備をな
さしむ

起床し得る程度に恢復したる患者は先づキユアー・チェアー（四十五度傾斜
の長椅子）に凭れかゝり數週間の後三分乃至五分間の散歩を開始し徐々に其
分量を増加するものとす

◎サラナック・レークに就て

一、當村は患者村にして、サナトリウム入院の資格なき患者、入院の順番を待
ちつゝある患者又はトルドー・サナトリウムに六ヶ月滞在せる患者にして

更に療養を繼續せんとする者等が來集す、當村人口約八千其内轉地療養患者
は常に三千内外を算す

一、當村にある家屋の多くはこれ等の患者の爲めに建設せられ居れり、別ちて
普通下宿屋と看護婦附下宿屋とす、前者には散歩を實行せる患者若くは輕症
患者が滞在し、後者には就床患者若くは重症患者が滞在する様出來居れ
り

一、當村患者の療法は全然トルドー・サナトリウムの方法に則り居れり

一、當村住民の多くは元患者なるか又は肉親の者が嘗て患者なりし關係よりし
て當地に移住し來れる者多きが故に、病者に對する諒解同情が徹底的にし
て當地住民が患者に對する態度は恰も親友に對するが如く寸毫も結核患者
扱をせざる點は新患者が當地に入り來りたる時深く感銘する所なりとす、此
心理作用が患者の療養精神を引立つる上に於て如何に有効なるかは言を俟た

ず

一、尙患者に最も有効なる點は、新患者當地に来る時は醫師の診斷を受けそれぞれ一定の安静方法を實行する様指圖を受けるものとす、由來結核患者は自己は左程重症患者にあらずと誤信する共通的の傾向あり、然るに、斯く誤信せる患者下宿屋に來り見れば既に數ヶ月滞在し己れより遙かに輕症なる患者がサナトリウム式療養法を嚴格に履行し居るに鑑み飄然として反省する所あり斯くて不知不識の裡に完全なる療養を遂行し得るなり

一、右はトルドー博士の教を受けたるドクトル・ポールドキン又はドクトル・ローラン・アラウン其他の多くの専門醫師が患者の療養を指導し援助するが爲めなり

ドクトル・ローラン・アラウンに就き聞きたる一例に徴するも當村の醫師が如何に患者を援助するかを窺はる、ドクトルが貧困患者を無料にて診察又

は療養監督をなし又所有の太陽燈を無料にて患者に使用せしむる等その一例にして、これ等の經濟上の援助が患者療養上甚大なる効果あるは言を俟たず。以上は井家氏の通報せられたる所であり、これサナトリウム及療養村の患者生活の大要が了解出来るのであります、次に、この療養村の發達を略述し、併せて自敘傳の物語る所を御紹介して、トルドー及び彼れのサナトリウムが中心となつてその周圍に如何に理想的の療養都市を建設するに至つたかといふ事を話し致し度いと存じます。

サラナック村の起原

サラナック・レークの村は千八百七十六年に始めてトルドー一家が移轉して來た時は、眞に山中湖畔の一孤村で、挽材小屋と人夫の旅籠と寺小屋式の學校とが一軒づゝ、それに獵師の家が十二三軒と雜貨の小賣店が一軒、これが村の全部でした。然るに、トルドー來住と共に數名の患者が引移つて來たので、その必

要に迫られて間もなくパークレーといふ廿人位の客を收容出来る旅館が新築されました、これが此の村に於ける最初の旅館です、次ぎに千八百七十九年に建てられたのが、聖路加教會と云ふ教會堂です、この教會堂の新築に就てもトルードーの建設的天才の一端を察する事の出来る話がありますから、序に書いて置きます。教會新築の計畫はパークレー・ホテルの逗留客と居住民の間に起つたもので、トルードーは會計委員を委託されたのですが、數回の委員會を開いても議が一決しませんが、委員の中には、新築豫算額に寄附金が鑑一文でも不足しては工事に著手してはならぬと主張するものもあります。トルードーはこれに反對して、そんな遣り方では到底教會を建てる事は不可能である、構はず工事に著手すれば金は後から調達出来る事は疑ひないと熱心に意見を述べましたが、終に採用されるに至りませんでした。その内にパークレーの逗留客は皆引揚げて了ふ、教會新築の計畫もどうやら立消えらしく成つた時に、村民の代表者がトルードーを訪問して、

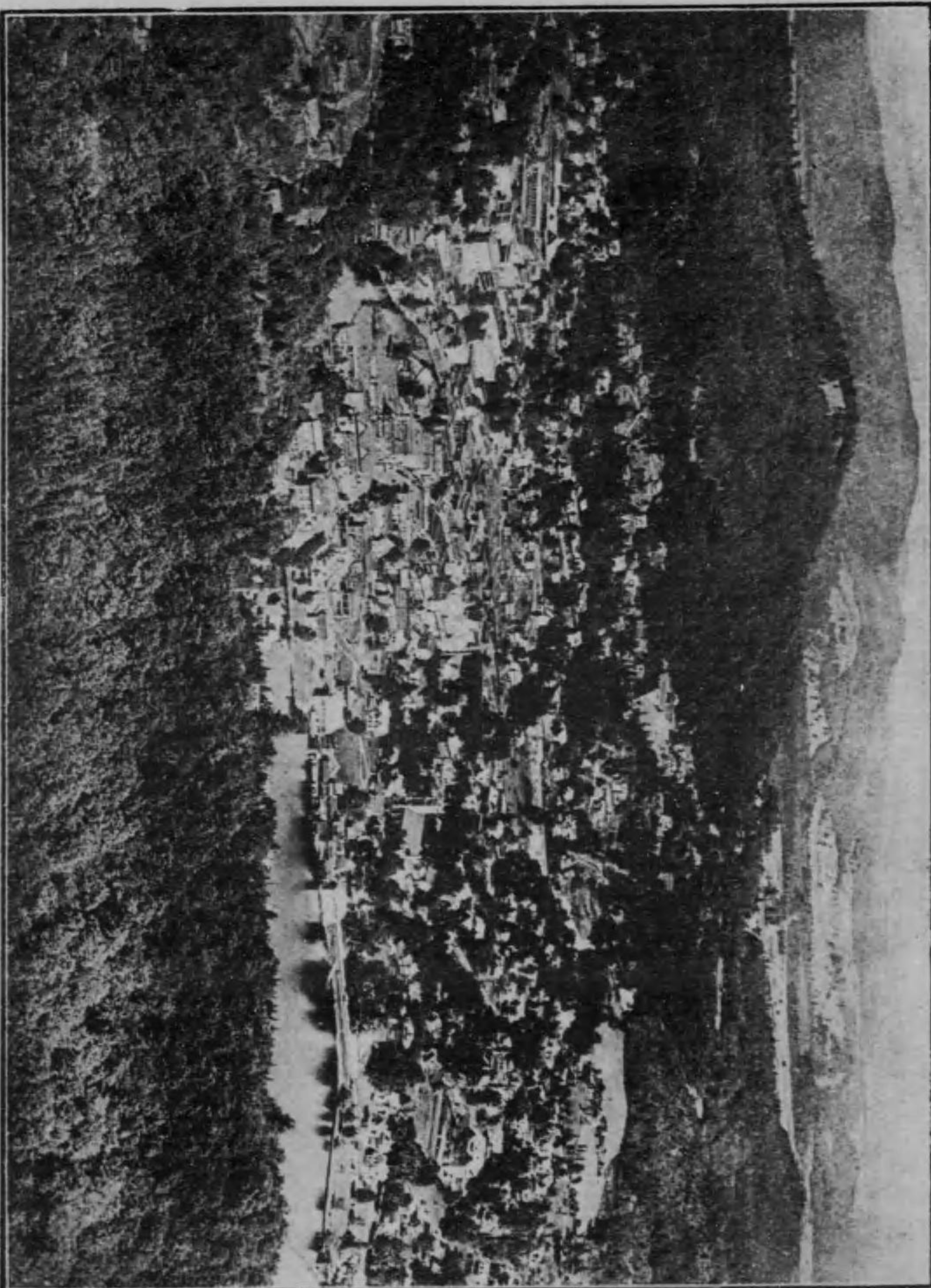
折角自分達も寄附を思ひ立つた事であるから、その寄附金を基礎として何とか教會の建立されるやうに計つて貰ひ度いと縷々懇囑する所がありました。トルードーはこれに對して、一切を自分に無條件で委任するならば引請けても宜敷い、その代りに自分が適當と思つた時は屋根を下に土臺を上逆様に教會を建つるかも知れないがそれでも異議が無いかと確めた後に、代表者の申出でを快諾しました。その時の寄附金は建築豫算の半額にしか達して居ませんでした。この話をトルードーが歸つて夫人に話した所が、夫人は「何時もあなたは自分勝手に遣り通す事が好きですね」と笑つたと云ふ事ですが、この方針は決してトルードーを後悔させませんでした。工事は直ちに著手され、不足な資金はトルードーが夏の來遊客の間から募集して、些しの故障も見ずに教會は數ヶ月にして建立されたのであります。後年に彼れがカッテージ・サナトリウムを計畫した時と事業の規模の相違こそあれ、建設方針は全くその授を一にして居るではありませんか、かくの如

きは實に一種の建設的天才とも稱して然るべきかと思はれます。

話は岐路に入りましたが、扱、聖路加教會が建てられた以後村内にも大分新築家屋が殖えて來、又一方には冬季の療養客も若干づゝかは増して來るやうに成りました。これ以後はサナトリアムの創立發展に伴つてトルードーの名聲と共にサラナック・レーク村の名が恰も起死回生の新天地でもあるやうに喧傳され、逐年療養客の増加を見、現在では第二〇圖で御覽の通りの般盛な小都市をなすに到つたので、一切の規模設備はアディロンダック地方の首都の名を恥めぬのであります。しかし人口が多いとか、交通が四通八達で鐵道網の中心に當つて居るとか云ふ事は暫く置いて、次ぎに療養都市としてのサラナック・レーク村に就て多少の説明を加へて置き度いと存じます。

結核抑制協會

この療養村の機能を昂めて行く機關が二つあります。一つは結核抑制協會とも



サラナック・レーク村の全景
トルードー・サナトリウムは正面左りの山の裾を廻つた裏側に當つて居ます。

譯しませうか、この協會の目的は(一)結核衛生思想に關する民衆教育、(二)豫防方法殊に喀痰消毒方法の強制勵行に關し健康局を援助すること、(三)旅館下宿に對する衛生法勵行、(四)療養費なき重症患者をアデイロンダック地方に送り付くる弊風の防止、(五)轉地療養客に對する療養上の無料指導案内、(六)看護婦紹介、(七)療養具の貸付等で、財團法人組織で有意義の活動を續けて居ます。この結核抑制協會の事業の内容等を同協會年報によつて御紹介するのも有益かと存じますが、餘り枝葉に互りますから省略します。

健康局

今一つの機關は健康局で、衛生法の勵行結核豫防撲滅方法の實行を目的として居ます。この村に健康法が實施されたのは千八百九十七年です、そして、十一年後の千九百〇八年のワシントンに開催された世界結核協會大會に於ては衛生状態の優良なる都市としてサラナック・レークは銀牌を以て表彰されたのであります。この事實を更に明確に立證するのは次の統計であります。即ち、サラナック。

レーク居住民（轉療者を除く）の結核死亡率は、

二七六

自一八九七年 六九三人に對し一人
自一九〇〇年 一二四一人に對し一人
自一九〇五年 一二四一人に對し一人
自一九〇六年 三二二五人に對し一人
自一九一一年 三二二五人に對し一人

その他の統計に徴しても、サラナック・レークは同程度の大きな他の町村よりも健康上安全な地帯である事が断定されて居るのです。斯かる立派な療養都市がトルドー・サナトリウムを中核として成長し、その療養都市の近郊に紐育州立療養所その他五六のサナトリウムが建設され、アディロンダック一帯の地が米國でも有數な健康地帯として讚稱されるに到つた事は誠に驚くべき開發と云はなければ成りません。この療養都市の開發をトルドーは如何に觀て居つたか、サナトリウムやレセプション・ホスピタルの限りある收容能力を以てしては、殺到し來る

多數の患者に満足と與へ得るものではなく、この缺陷を補ふ爲めには、サラナック・レーク村の療養ホテルや下宿にサナトリウムの空氣を注入して、全村を擧げて一大カッテージ・サナトリウムと化する、そしてトルドー・サナトリウムが中心となつて、全村の衛生思想を高め療養客の治療方針を統一する方面に不斷の努力を續ければ、療養地にあり勝ちな華美逸樂の流弊を防ぐ事が至難ではないといふ事をトルドーは明確に意識し、己れも亦門下の醫師もこの方面に努力を傾注したのであります。次に自叙傳からサラナック・レークに關する一節を抄譯しませう。

「これ等の歳を通じて、結核問題の解決に當つたのは吾サナトリウムと研究所のみではなく、サラナック・レークの村も亦時代の要求に應じて絶えず其組織を新たにし、銃獵案内者の小部落が終に繁華な町となり般賑な健康保養地となり、過去卅年間この村に移住する病者の數は年々に増加するに到つた、その

結果としてサラナック・レークは貧富の論なく社會の各階級から押し寄せて來る多數の人々の要求を充す爲めに、事實に於て一村そのものが大規模のカッテージ・サナトリウムに改造されるに至つた。この村の療養客は金さへ出せば、意の儘に、衛生設備の完全した外氣療法を最も便利に愉快に實行し得るやうに特別に設計された寧ろ贅澤とも思はるゝ家を容易に手に入れる事が出来る、村中到處に見出さるゝ下宿屋も亦これに倣つて外氣療法の特長、衛生設備の點に意を用ひて居る。』

「村の衛生に關しては健康局が結核豫防に就て進歩した實行策を講じ、規則條令を發布して病院旅館は勿論村全體を取締つて居る、又病人が明けた部屋は強制的に消毒燻蒸を命ずる等、すべての豫防方法は頗る有効に實施されて居る。然るにも拘らず、結核恐怖の間違つた觀念に拘はれたる一般の人々はサラナック・レーク轉地を考へるさへ戰慄すべき事だと誤信して居るのであるが、斯か

る考へが全然杞憂である事は、土着住民の結核死亡率に徴しても容易に知られるのである。殊に特筆しなければ成らぬのはサラナック・レークの千餘名の小學兒童の結核死亡率が紐育州内の同じ大きさの他の町村の青年少年のそれよりも低いといふ事實である。兒童は成年者よりも結核に對して遙かに感染性が強いのであるから、若しもサラナック・レークの衛生状態が悪いものならば、その結果は靚面に小學兒童の健康の上に現れなければならないのであるが、事實はその反對を物語つて居る。この事實は結核に最も敏感である五歳以下の幼兒の死亡率に就て考ふる場合に更に一層明白になつて來る、紐育州衛生監督官の報告によると、過去十八年間にサラナック・レークで生じた五歳以下の幼兒の結核性腦膜炎死亡数は僅かに廿四件に過ぎない、その内十三件は親が結核患者であつたから恐らく原因は親子間の傳染であらう、この外に兩親の健康状態が不明なのが一件ある、結局、健康の兩親を持つ幼兒で結核性腦膜炎で死亡

したものは十八年間に僅かに十件を算するに過ぎなかつたといふ事が證明されて居る、この數字は開却する事の出来ぬ意義ある數字である。私はこの事實を結核を過度に恐れて居る無理解な世人並びに醫師達の考慮に供へ度いと思つて居る。多數の病者を收容する故を以てサラナック・レークの衛生状態を非難し攻撃する人々は、この遠隔の小さな村が他から押し寄せて来る悲惨な病者を庇護救援する爲めに多年の間如何に最善の努力を盡したかといふ事を尠しも知つては居らぬのである。そのみならず、結核を恐れ戦く親戚友人達は身勝手にも亦殘酷にも愚かにも、恢復の見込の無い貧しい結核患者を金も持たさず程遠いこの村に追ひ拂つて、それで厄介物を片附けたやうな顔をして居る、そして、その結果がこの村の背負ひ切れぬ慈善の重荷に更に餘計な負擔を追加して行く事を寸毫も察しはせぬのである。」

「私の僚友やサラナック・レークの有志者はこれ等の貧しき病者を救済する事に無關心ではなかつた。ドクトル・ローラソン・ブラウンの主唱によつて、總ての在留患者新來客に必要に應じ療養上の指導援助を授くる爲めに結核抑制協會が組織され多年の間尊き仕事を續けて來て居る、協會のこの事業は花々しき成功を以て飾らるゝ性質のものではないが、打ち拉がれた人類の最も哀切なる一要求に對ふるに實際的な犠牲獻身の大福音を以てせんとする有意義の企てと云はねば成らぬ。この村に移住し來るものは世間の白眼冷遇から免れて茲に希望に満ちたる生活を見出し、何處にても求め得ざる親愛と好感と愉悅の雰圍氣に浸りつゝ健康の恢復を計る事が出来る、それを可能ならしめるのがサラナック・レーク村の尊き使命であり、麗しき特色なのである。」

十三 終焉

トルドーは千九百十五年（大正四年）十一月十五日六十八歳を一期としてサ
 ラナック・レークの寓居に於て長逝しました。彼れの晩年の病状は實に悲惨の
 ものであつたので、千九百十三年には打ち續く病熱の苦惱を却ける爲めに、當時
 未だ効果の疑問であつた人工氣胸療法を行つて、一方の肺を虚脱せしめ、辛うじ
 て發熱を防ぐことに成功した程なのでありましたが、その結果として甚だしく呼
 吸が困難となり殆ど歩行は不可能の状態に陥つたのであります。斯る病状にあ
 りながら、トルドーが爲した掉尾の仕事は自敘傳の執筆であつたので、最後の
 頁を書き終り、表題を定めやうとする間に、致死の病苦に襲はれたのでありま
 す。そこで、友人の一人が、表題を「忍從」と命名してはどうかと提案しました

人工氣胸療法

處が、トルドーは微かに笑ひながら、首を横に振つてその言を斥けました、彼
 れは一語も發することが出来ぬ容態であつたのです。後に、トルドーは少しく
 病苦が和いだ時に、傍の秘書に次のやうに書取らせたと云ふことです。

「世間の人が私の一代記の内から教訓を見つけ出すことは構はぬが、自分が讀
 者に訓へんとしたものとは思つて貰ひ度くない。」

トルドーの墓所は、チャルマース氏の書物にも書いてありませんが、自敘傳
 に「三人の我が愛兒はこの小さき建物の軒端に近き松の根下に瞑つて居る、そし
 て我等が永き眠りに就く時もその場所は慕かしく想出に富めるこの静かなる土地
 であるべきことが夫婦二人の願ひである」と云つて居る所の、ポールスミス村の
 セントジョーンズ教會の墓地であるに相違ありません。彼れが廿六歳の時に絶望
 の病骨を埋むる墳墓の地としてアディロンダックのこの地を選んでから實に四十

二年、その間に、トルドーが營々として築きあげたる彼れの墓標は何たる巨大なものであつたてせうか、世界に類例なきトルドー・サナトリウムと、療養都市サラナック・レークとはトルドーの築きあげたピラミッドでなくて何んでせう。そして幾千年前の埃及の文化を語るギゼの金字塔からは考古學者を喜ばす木乃伊が掘り出されるのでありますが、トルドーのピラミッドからは復活せる生命が無限に掘り出されて、彼れの生命を永劫に傳へ蘇へらせて行くのであります。私はトルドーの在天の靈に對し、

偉大なる結核征服者

永遠に蘇へれる病者

の言葉を捧げて、この一卷を結ぶことに致します。(畢)

跋

結核黎明運動に就て

(第一篇「肺病に直面して」の序文より)

○(前略)肺病黎明運動といふと團體的の計畫らしく聞え、甚だ誇大に失する嫌があるのですが、私の心願には多少共社會的の意味が附帯して居ると考へ、徒手空拳のたつた一人の此企てに對し、敢て黎明運動の名を附した譯なのでして、翳す旗旆が小さくとも、打つ太鼓が響かずとも、私は此企てを生涯の餘業として趣味として、續けて行きたいと思つて居ります。扱、私の所謂「肺病黎明運動」とは自分の肺病全治の宣傳吹聴ではなく、肺結核に纏綿する誤解謬想を打破して、無理解なる肺病療養の現狀を一瞬たりとも理解の黎明に近づかせたいといふ心願に基いたもので、此運動の對象とする所は、相當の療養費を有し相當の理解力を有しながら唯肺結核の眞相を識らないが爲めに、療養の

岐路に彷徨する病友諸賢であります。貧しき者に如何にして療養を遂げますか、如何にして治療を強制するかの問題は、國家公共團體が取扱ふべきものでありまして、他日私も其方面の考察を發表したいと思ひますが、併し、差し當つての問題として私が考へなければならぬのは、私と境遇を同じうする病友諸賢に就てであります。經濟的にも智能的にも十分に肺結核を征服し得べき資格を備へながら、唯單に疾患の眞相に通ぜなかつた爲めに悲む可き運命に逢着するといふ事は、自身過去の鑑みても眞に痛恨に堪へぬ所であるので、私はこれ等の病友諸賢に對して、此書物を通じて「肺結核の眞相」を物語りたいと思ふのです。併しながら諸賢と物語る際に、私は「同病相憐む」といふ感傷的な心持は寸毫も有しては居りません。「同病相憐む」といふ言葉は、疾患の壓迫に反抗し得ない人達が相擁して洩らす歎歎の聲であります。が、肺結核の病牀を斯る陰惨な運命的のものとして観するのは、疾患に對

する無理解の致す所なので、病者が一旦理解の眼を睜れば、その病牀は光明遍滿の境地となるのであります。肺結核の同病は相憐の涙に袖を絞る以前に、相勵まして疾患に直面し、相携へて疾患を理解す可きものと考へます故に、私は「同病相憐む」の歎歎嗚咽を排して、「同病相導く」の光明的な心持を以て、憚る所なく肺結核の眞相を物語りたいと思ひます。従つて私の説く所は、運命觀めいた尤もらしい述懐でもなく、宗教的な鹿爪らしい思索でもなく、肺結核に關する平凡なる常識に過ぎません。肺結核療養は神佛の加護に頼らなければならぬ程な重大問題ではないのであります。

○肺結核に對する正しい觀念を鼓吹するといふ事は、申す迄もなく困難な問題であつて、醫學上の智識を全然缺いて居る私一寸お断りして置きますが、私は東京高等商業學校の出身です」としては、或は發言を慎む可き筋のものかは知れませんが、自分の考へる所では、肺病黎明運

動の基調を成すものは、決して細菌學や診斷學上の智識ではないのでありまして、私の過去二ケ年の療養生活と、それに引續いた病後生活中の研究と思索とが、私に肺病黎明運動を發願せしむる資格を賦與して呉れたものと、烏滸が間敷も確信して居るのであります。斯る所信の下に、患者として自分は如何に肺結核を考察したか、その考察の次第を發表して、黎明運動の第一聲としたのであります。併しながら、世間には結核患者の疾患研究に反對する聲が可也に高いのであつて、或は「人生字を識るは愛患の始め」など云ふ愚痴に等しき古諺を適用して患者の研究を阻め、或は「病は氣から」と唱へて患者をして疾患を輕視せしめるやうに誘惑するのであります。患者の精神氣力を旺盛にし、疾患征服の確念を抱かしめる一般的な最も有効なる手段は「疾患に對する正しき理解を患者に授ける」事より外に無いのであります。患者に肺結核の真相を知らせずに療養させやうとするのは、耳目を塞

いで棧道を行かせるやうなもの、無事に通過したからと云つてそれは僥倖を誇る可き事ではなく、寧ろ深く無謀を恥づべきものなのです。○但し、肺結核が世人の一部の誤信するが如くに不治の難患であるならば、その真相を患者に知らしめる事は輕率に無し難い所であり、又不治の難患ならずとするも肺結核の真相なるものが玄妙不可思議のものであり、常人が之を究めやうとすれば往々にして一知半解の弊に陥る虞れでもあるならば、前述の私の所論は毛を吹いて疵を求めの非難を免れ難いのであります。肺結核は各種の慢性疾患中最も治癒し易い疾患であり、その疾患發生の真相は普通の理解力を以てすれば、直ちに首肯し得らるゝ程平易明快の事實であります。世人の多くが戰慄し嫌忌する結核菌の存在は私をして云はしむれば自然現象の一部であつて、山に禽獸が栖み、海に魚介が育つと同じ意味に於て、我々の體內身邊に結核菌は生息して居るのであります。故に我々は動物植物

學の大要を教へられると同様に、結核菌に就ても正しい智識を授けらるべきものなのであつて、結核症の發因を正當に理解するといふ事は病者たると健康者たるとを問はず、醫師たるとたらざるとを論ぜず、我々の常識の一部を成す可きものであります。然るに現代に於ては結核に關する智識の涵養は一般人は勿論の事、病者に對しても爲す間敷きものと定められて居るので、私なども周囲の者から全快後も猶結核の書物を細くが如き度す可からざる神經質の人間といふ批評を度々蒙るのであります。併し肺結核の如き個人の境遇習癖が原因する慢性疾患は、個人的にも社會的にも此疾患に對する理解を涵養せずには到底絶滅し得ないのであります。實に結核に關する常識の涵養、肺病教育の普及といふ事に肺病問題解決の基礎は存するのであります。

○肺病教育を施すに當つて最も熱心なる志望者は云ふ迄もなく患者であります。患者は自家頭上の問題として眞摯の態度を以て疾患の眞相を

知らんと欲して居るのであります。而してピラを撒き活動寫眞を興行する群衆對手の宣傳に比較すれば、患者個人に正しい理解を授ける事は甚だしく迂遠な方法らしく思はれるのであります。實は肺病社會問題の根柢は輕浮なる群衆に對する宣傳に存せずして、此疾患に直面せる個々の患者を如何に教育するかといふ點に存するのであります。即ち一人の患者を啓發して肺結核を正しく理解せしめるといふ事は、其患者を通じて周囲の人々を正導するといふ結果を期待し得るのであります。ピラの頒布や活動寫眞の興行の如き形式に墮した宣傳方法よりも、患者啓發の個人的方法に實は肺病撲滅運動は發端するのであります。斯くの如く肺病教育の必要な事は個人療養の上からも、社會政策の上からも肯定されるのであります。本邦肺療養の現狀を觀まするに、個人療養も社會運動も驚く可き程肺結核の眞諦と隔絶した觀念の下に取扱はれて居るのであります。斯る現狀を打破して一歩たり

とも正道に近づかうとするには、前にも陳べた如く、現在肺結核に悩まされて居る病友諸賢に、先づ疾患の真相を理解して貰ひ、自分自身の宿痾を見事征服すると同時に、病友の一人／＼に結核撲滅運動の戦士となつて貰ふのが、最も有効的な根本的な畫策なのであります。私此趣旨に於て「肺病黎明運動」を企て、其第一聲として此書物を執筆したのであります。將來に於ける私の「黎明運動」が如何なる形式に於て實現するかは私自身にも明確でないのであります。兎に角私の境遇に於て最も容易に爲し得べき方法は「肺結核黎明思想」を文字によつて宣傳することでありませうから、今後も餘暇を割いて英米に於ける肺病問題の研究を続け随時發表したいと思つて居ます。千篇一律の療養書や個人の全快談や、賣藥の効能書より外に、讀み物の無い本邦療養界は患者にとつては餘りに寂し過ぎるのであります。(以下略)

大正十三年十月十一日印刷
大正十三年十月十六日發行

(定價貳圓參拾錢)



◀服征樓結▶

著 者 者 茂野吉之助
東京市牛込區矢來町三番地
發 行 者 佐藤義亮
東京市牛込區矢來町三番地
發 行 所 新 潮 社
電話牛込 八八八八
〇〇〇〇
九八七六
番番番番

番二四七一(東京)替振

印刷所

東京市小石川區西江戸川町
電話小石川五九二番

富士印刷株式會社

印刷者 佐々木俊一

肺病に直面して

四六判洋布特製
紙數四百九十六頁
寫眞版別刷十五枚
價參圓送料拾貳錢

茂野吉之助氏著

第十三版發賣

內容目次

- 序文、英國アーサー・レーサム氏序文
- 同、醫學博士原榮氏序文
- 自序、倫敦から小田原へ
- 其一、私は肺結核を斯く考へる
- 其二、肺病サナトリウム療法
- 第一、サナトリウムに於ける外氣療法の原理
- 第二、家庭に於けるサナトリウム療法
- 其三、轉地療養といふ事から説き起して
- 其四、療養生活
- 第一、レーサム氏の療養注意書

原博士序文(抜記)

此書の著者茂野氏の如きは病者として最も正確にサナトリウム療法を理解された先覺者であつて、同氏が當時の療養地たりし小田原から受診の爲め遙々大阪に私を訪はれた大正七年の冬から、及ばず乍ら私は療養上の相談相手となつて、爾來毎月或は隔月定期的診察を續けて、同氏の病患が全く恢復した今日に及んでゐる。此療養の期間から同氏は絶大の決心を以て、世上の同病者に、「何が肺病療養の正路であるか、何が肺結核に對する正當の見解であるか」を徹底的に物語る爲め、自己の體験を根柢として此書の著述に着手された。勿論著述に對する同氏の熱心は眞に驚嘆すべきものであつたが、問題が動もすれば専門の領域に入り込んで

- 第二、療餘地の選定
- 第三、病室と空氣
- 第四、病室の設備
- 第五、正規生活の日課票
- 第六、運動の調制
- 第七、性慾問題と夫婦別居論
- 第八、喫煙と飲酒の害
- 第九、療養費と經濟的治療
- 第十、病後生活の警戒
- 其五、療養漫録
- 第一、療養上の三つの態度
- 第二、不人氣な自然療法と俗受けのする注射療法
- 第三、危険なる全快談
- 第四、肺病療法の廣告
- 第五、療養生活の干渉
- 第六、偶感
- 第七、統計
- 第八、參考書
- 第九、消息に現れたる高山樗牛の病生活

くるので其研究の方法と記述の苦心も決して一通りの困難ではなかつた。私は同氏の依頼を受けて終始其草稿の校訂を受け持つたが、勿論それは専門醫家としての檢閲であつて、勝手に私の意見を加へた所などは一箇所も無い、本書の記事は悉く茂野氏自己の體験と觀察と攻究と熱誠との結晶である。——今回脱稿された此著述の終始を更に通讀して見るに、右の諸點は遺憾なく隨處に發揮せられ、肺結核病そのものと療養生活とに就ての同氏の見解は、到底現在の専門醫家も及ばぬ程、眞に徹底したものである事益々明に認められる。醫師が著した肺療養書の類は現在本邦でも多少はあるが、總じて醫師の著述に成る肺療養書は肺病治療なる攻城戦に参加した從軍記者の戦記のやうに、危険區域の外から見物して來た隔靴搔痒の今一つ物足らぬ感じのする物ばかりである際に、これは又、自ら幾度か硝煙を浴び、幾度か肉弾戦に参加した勇敢沈着なる戰士自らの手記である。その實際に遭遇した攻城戦備や、砲彈雨下の戦場の掛引は手に取る許り精密に、溢れるやうな熱心に以て書かれてある誠を得難き貴いものである。同病者を益する事の絶大なる、蓋し從來の同種の著書の比ではあるまいと思はれる。

現三代名家の代表的名篇

■長篇小説 多情佛心

里見 淳氏著

(全二冊) 各貳圓五拾錢
送料各拾貳錢

作者が學生の心血を傾けた一大長篇である。常に何人かを愛せず居られぬと云ふ一人の男を主人公とし、その多彩の戀愛史を通じて、多情佛心の作者一流の人間觀を寓し、或は花柳界の真相を、或は不良少年の暗面を、或は文壇人の内幕を描いて現代生活の縮圖を展へ、各方面各階級の人物幾十を拉し來つて、心理と性格と其れぞれ活きて紙上に躍るの觀がある。堂々一千數百枚、作者空前の力作。

■戲曲集 時の氏神

菊池 寛氏著

中版特製 價壹圓參拾錢
郵送料拾錢

菊池氏の新脚本集で、眞似。浦の苦屋。震災餘譚。丸橋忠彌。夫婦。石橋山。時の氏神等、最近發表の七名篇を収めてある。作者自ら曰く、「眞似」と「時の氏神」は、集中に於いて稍會心の作である。特に「時の氏神」は創作後の感じに於ては、よく書けたと云ふ氣がした。そんな氣がしたのは、この作品が初めてと云つてもよい位である。舞臺上如何なる效果を得るか、やゝ楽しみにして待つてゐる。云々。

■小説集 黃雀風

芥川龍之介氏著

特製美本 價貳圓參拾錢
郵送料拾貳錢

一作毎に新思を出し、一篇毎に世評を動かす芥川氏の近業十六篇を収めた新集である。「一塊の土」の重厚なる寫實、「絲女覺え書」の深刻なる解剖、「不思議な島」の輕妙な眼刺を初めとして、「おしの」には切支丹物の極北を示し、「少年」には追憶文學の典型を見せ、その他いづれも一作よく全文壇を壓する底のものならぬはない。例によつて裝幀極美、金玉の篇を盛るにふさはしき特製美本である。

終